

作業療法学科 理学療法学科(昼間部・夜間部) 看護学科 介護福祉学科 国際介護学科 デジタルソリューション学科



令和6年度年報



九州中央リハビリテーション学院 令和6年度年報

【目 次】

- ・令和6年度年報の発刊に際して
 - ・学院概要
 - ・組織構成
 - ・沿革
-

令和6年度 年次活動報告書

I 学籍異動・教職員数

II 年間行事実績

- 1 作業療学科・理学療法学科
- 2 看護学科
- 3 介護福祉学科
- 4 国際介護学科
- 5 デジタルソリューション学科

III 学生生活

- 1 入学式
- 2 宣誓式
- 3 専各連スポーツ大会成績
- 4 在学生の声
- 5 ボランティア活動
- 6 就職説明会
- 7 就職
- 8 卒業式

IV 教育活動

- 1 作業療法学科・理学療法学科
- 2 看護学科
- 3 介護福祉学科
- 4 国際介護学科
- 5 デジタルソリューション学科

V 研究・研修実績

- 1 執筆・論文
- 2 学会発表
- 3 講演
- 4 学会座長
- 5 その他(講義・査読等)
- 6 研修会参加
- 7 社会活動実績

VI 社会活動・地域活動

- 1 介護予防事業(OT)
- 2 介護福祉士実務者研修(CW)
- 3 進路ガイダンス等
- 4 学生募集活動
- 5 オープンキャンパス
- 6 入学前教育プログラム

VII 奨学金

VIII 編集後記

令和6年度年報の発刊に際して

九州中央リハビリテーション学院 学院長
河野 文夫

関係各位 殿

平素より九州中央リハビリテーション学院に対して、ご理解ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。第19号にあたる令和6年度九州中央リハビリテーション学院の年次活動報告書（年報）が出来上がりましたのでご挨拶申し上げます。

本学院は平成18年4月に作業療法学科と理学療法学科で高度専門士を養成する4年制の専門学校、九州中央リハビリテーション学院として開校し19年目を迎えました。理学療法学科には昼間部のほかに熊本県内では唯一の夜間部を設けています。平成21年には、3年課程の看護学科を開設し、平成23年には2年課程の介護福祉学科を開設し、平成29年から海外からの留学生のための1年課程の国際介護学科を設置しました。また、平成31年からは、働く学生がより勉学に励みやすいように、理学療法学科夜間部を3年課程にカリキュラムの変更を行いました。更に、令和6年4月より、地場産業から求められているIT人材育成のためのデジタルソリューション学科を開設しました。そしてこれまで、本学院から高い資質を持った、理学療法士、作業療法士、看護師、及び介護福祉士の卒業生が社会人として全国各地の医療福祉の現場で活躍中です。

この年報を見ていただくと、本学院が一年間行ってきた活動の全貌がお分かりになると思います。昨年度に引き続いて教職員の資質向上に向けFD委員会を開催し、学生との関わりや勉強への動機づけ、カリキュラムの検討など、これからの教育活動に結びつけられる実りある研修を行う事ができました。また学生一人一人の日常生活にも目を配り、いつでも学生の悩みに学院として対応するために学生サポート委員会を毎月行っています。

今後も、しっかりと足を地につけて一步一步前進して行ける学院を目指して、この年報を活用していきたいと考えています。

今後とも本学院に対するご理解とご協力をお願い致しますとともに、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、皆様方のますますのご活躍を祈念し、ご挨拶と致します。

令和7年 5 月 吉日

学院概要

学校設置者	学校法人 立志学園
代 表 者	理事長 志垣祥一郎

学 校 名	九州中央リハビリテーション学院
学 校 長	河野文夫
所 在 地	熊本市中央区本山 3 丁目 3 番 84 号
ホームページ	http://www.kcr.ac.jp

課程名	学科名	修業年限	入学定員	総定員
医療専門課程	作業療法学科	4 年	40 人	160 人
医療専門課程	理学療法学科昼間部	4 年	80 人	320 人
医療専門課程	理学療法学科夜間部	3 年	40 人	120 人
医療専門課程	看護学科	3 年	80 人	240 人
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	2 年	40 人	80 人
教育・社会福祉専門課程	国際介護学科	1 年	20 人	20 人
工業専門	デジタルソリューション学科	2 年	40 名	80 名
計			340 人	1,020 人

理念・目的・方針

1. 基本理念

・徳育

道徳心のある、情感豊かな人間性を養うための教育

・知育

知識を広め知能を高めるための教育

・体育

運動能力や健康な生活を営む態度などを養うことを目的とする教育

特に徳育に重点を置き、基本的な礼儀作法を始めとした社会性の習得を徹底させ、奉仕を信条とする人材の育成を図ります。

2. 目的

本学院は、教育基本法および学校教育法に従い、専門職として必要な知識・技能・態度を

教授し、あわせて職業倫理をはじめ豊かな教養と人格を涵養し、社会に貢献する有能な人材を育成することを目的とする。(学則第2条)

3. 運営方針

<学院づくり指針>

- ・穏やかな学院

知的躍動が漲り、医学を習得し育てる学院とする。

- ・健やかな学院

他者を支え、寄り添う幹を伸暢し育てる学院とする。

- ・美しい学院

感性が迸り、倫理観を涵養し育てる学院とする。

<教育指針>

- ・全ての学生を適切に指導し、明確な将来像を示し、目標達成に導く。
- ・生命の尊厳を尊重し、他者を敬い、多様な社会で協働・協調できる人材を育成する。
- ・問題発見能力と問題解決能力をもつ人材を育成する。
- ・粘り強く、あきらめない心を育み、自己の責任を全うする人材を育成する。
- ・社会性を育み、良き市民として自らを律し、自省自立できる人材を育成する。

<職員行動指針>

- ・人間力・教育力・専門力の向上に邁進する。
- ・個々の人格を尊重し、多様性を認め、各々が能力を発揮できる環境整備に努める。
- ・それぞれの専門分野を通し、広く社会に貢献する。
- ・社会の一員を自覚し、良き市民として、職業人として、自らを律し自省自立の精神を持つ。

4. アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

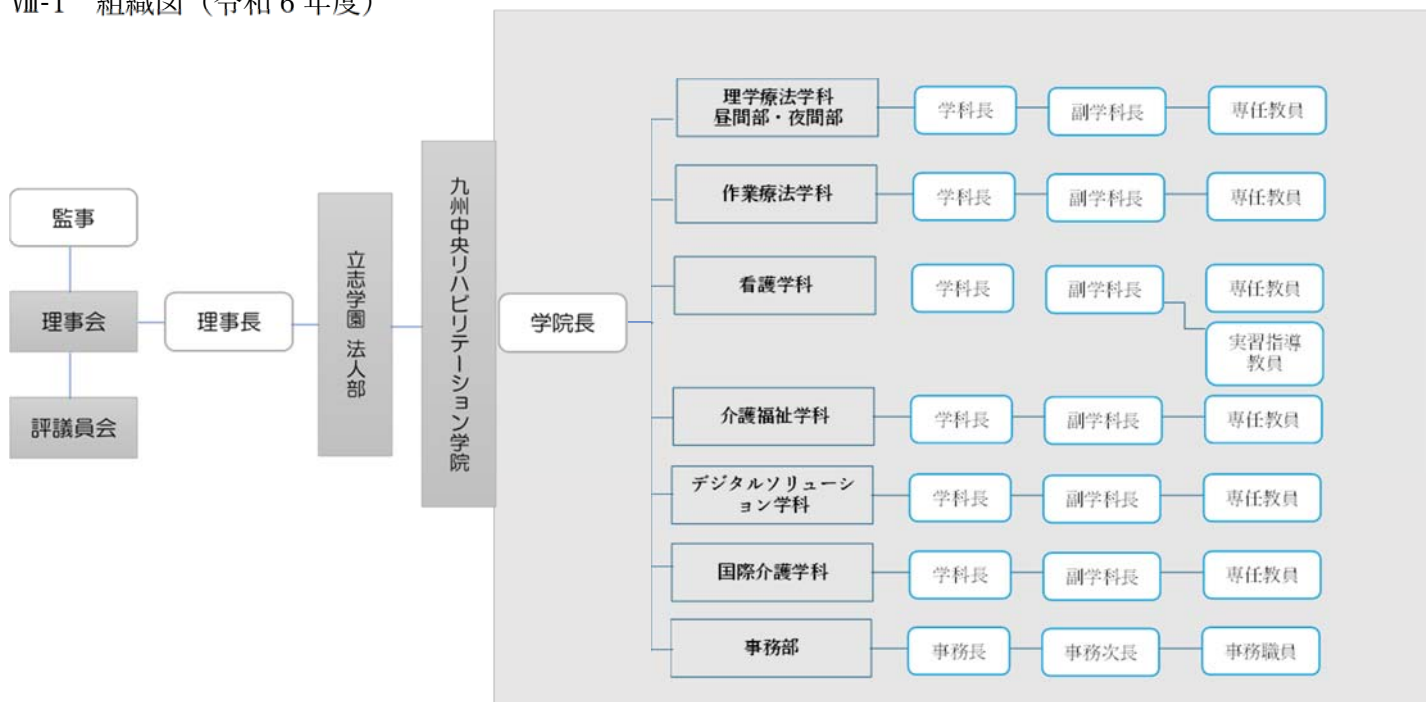
本学は平成18年に開学した、医療系の専修学校です。広く社会に貢献し、高い資質を持った、理学療法士、作業療法士、看護師、及び介護福祉士を養成しています。

本学院は、自ら学ぼうとする意欲と努力を惜しまない学生を求めています。その為には広い視野を持ち、真摯に討論や対話ができ協力し合える能力を備え、また身に付けようと考えている人を広く求めています。

本学院の基本理念である、「知育・徳育・体育」の基、理論と実践に裏打ちされて専門的な知識と技能を身につけるだけでなく、医療人として心豊かな人格の涵養も重要な柱と位置づけ、独自のカリキュラムを用意しています。感性豊かで高い志を持った方々が、本学院の一員となって私たちと共に学びあえることを期待します。

VIII 学院組織構成

VIII-1 組織図（令和6年度）



VIII-2 学校法人 立志学園 理事・評議員・監事（令和6年度）

役 職	氏 名	勤 務 先
理事長	志垣 祥一郎	学校法人 立志学園
会長理事	河野 文夫	九州中央リハビリテーション学院 学院長
副理事長	高宮 宏	学校法人 立志学園
副理事長	田爪 正和	学校法人 立志学園
専務理事	志垣 伸太郎	学校法人 立志学園
理事	永田 壮一	医療法人永田会 東熊本病院 理事長
理事	藤田 雅士	株式会社熊本日日新聞社 常務取締役
評議員	伊津野 良治	財団法人 杏仁会 熊本内科病院 理事長
評議員	富島 三貴	医療法人 博光会 御幸病院・ぼたん園 理事長
評議員	志垣 輝子	
評議員	目黒 純一	学校法人 熊本学園 理事長
評議員	下田 憲幸	株式会社 熊本会計センター所長
評議員	浅山 弘康	株式会社 熊本放送 特別顧問
評議員	米満 弘一郎	医療法人 寿量会 熊本機能病院 理事長
評議員	由井 照二	由井法律事務所 弁護士
評議員	高濱 照	元九州中央リハビリテーション学院 副学院長
評議員	石崎 聖英	九州中央リハビリテーション学院 事務長
評議員	古山 仁	九州中央リハビリテーション学院 同窓会会長
監事	松本 和雄	
監事	田尻 恒憲	ノーリンプランニング株式会社 代表取締役

沿 革

平成16年7月28日	学校法人立志学園設立準備室設置(熊本市新屋敷1丁目3番25号)
平成17年7月15日	財団法人立志学園設立準備財団の設立許可(熊本県知事)
平成18年1月31日	校舎(1号館)竣工
平成18年3月1日	学校法人立志学園 設立認可(熊本県知事)
平成18年3月1日	九州中央リハビリテーション学院 設置認可(熊本県知事)
平成18年3月2日	学校法人立志学園 設立(熊本市本山3丁目3番84号) 志垣祥一郎 初代理事長就任
平成18年3月8日	九州中央リハビリテーション学院 理学療法士作業療法士養成施設の指定(厚生労働大臣)
平成18年4月1日	九州中央リハビリテーション学院 開校(熊本市本山3丁目3番84号) 岡崎禮治 初代学院長に就任
平成18年4月6日	理学療法学科(昼間部・夜間部)、作業療法学科 第1期生 126名入学
平成19年2月22日	理学療法学科夜間部 専門士称号付与認可(医療専門課程)
平成19年2月28日	理学療法学科昼間部 作業療法学科 高度専門士称号付与認可(医療専門課程)
平成20年12月25日	看護師養成施設の指定(九州厚生局長)
平成21年3月10日	2号館 竣工(熊本市本山3丁目3番87号)
平成21年3月19日	理学療法学科 昼間部 入所定員変更(40名→80名)の承認(九州厚生局長)
平成21年4月1日	児玉公道 九州中央リハビリテーション学院 第2代学院長に就任
平成21年4月2日	看護学科 第1期生 43名入学
平成22年2月26日	看護学科(3年課程)専門士称号付与認可(医療専門課程)
平成22年2月26日	理学療法学科夜間部 高度専門士称号付与認可(医療専門課程)
平成22年3月7日	理学療法学科(昼間部・夜間部)、作業療法学科 第1期生 102名卒業
平成22年3月15日	社団法人日本作業療法士協会 認定校登録 世界作業療法士連盟(WFOT) 認定校
平成23年2月2日	3号館 竣工(熊本市本山3丁目3番70号)
平成23年3月9日	介護福祉士養成施設の指定(九州厚生局長)

平成23年4月8日	介護福祉学科 第1期生 44名入学
平成23年12月22日	介護福祉学科(2年課程) 専門士称号付与認可(教育・社会福祉専門課程)
平成24年1月12日	看護学科 入所定員変更(40名→80名)の承認(九州厚生局長)
平成24年3月9日	看護学科 第1期生 36名卒業
平成25年3月9日	介護福祉学科 第1期生 39名卒業
平成27年3月30日	一般社団法人リハビリテーション教育評価機構認定(OT PT PTN)
平成27年5月23日	学校法人立志学園設立10周年記念式典・祝賀会
平成28年2月19日	文部科学省 職業実践専門課程認定(OT PT PTN CW)
平成29年2月24日	文部科学省 職業実践専門課程認定(Ns)
平成29年4月1日	国際介護学科設置 河野文夫 九州中央リハビリテーション学院 第3代学院長就任
平成29年4月3日	志垣伸太郎 学校法人立志学園 第2代理事長就任
平成29年4月6日	国際介護学科 第1期生6名入学
平成30年4月1日	理学療法学科 夜間部4年課程 募集停止
平成31年4月1日	理学療法学科 夜間部3年課程 設置
平成31年4月5日	理学療法学科 夜間部3年課程 第1期生 32名入学
令和6年4月1日	デジタルソリューション学科 2年課程 設置
令和6年4月2日	デジタルソリューション学科 第1期生 11名入学

I 学籍異動・教職員数

I -1 学籍異動

学科	学年	定員	令和6年度					令和7年度			
			期在 初籍数	退 学数	転区 科分 変更	留 年数	進卒 級業 数	新入 学数	編入 学数	留 年数	期在 初籍数
理学療法学科	1	80	71	10	1	3	57	36	0	3	39
	2	80	74	2	0	2	70	－	0	2	59
	3	80	74	1	0	5	68	－	0	5	75
	4	80	60	1	0	1	58	－	0	1	69
	計	320	279	14	1	11	253	36	0	11	242
理学療法学科 夜間部	1	40	17	7	0	0	10	7	1	0	8
	2	40	25	0	0	2	23	－	0	2	12
	3	40	22	0	0	1	21	－	0	1	24
	計	120	64	7	0	3	54	7	1	3	44
作業療法学科	1	40	24	4	0	0	20	25	0	0	25
	2	40	27	1	2	1	23	－	0	1	21
	3	40	24	4	0	1	19	－	0	1	24
	4	40	36	1	0	0	35	－	0	0	19
	計	160	111	10	2	2	97	25	0	2	89
看護学科	1	80	69	11	0	6	52	61	0	6	67
	2	80	73	7	0	8	58	－	0	8	60
	3	80	69	0	0	0	69	－	0	0	58
	計	240	211	18	0	14	179	61	0	14	185
介護福祉学科	1	40	21	1	0	0	20	33	1	0	34
	2	40	17	0	0	0	17	－	0	0	20
	計	80	38	1	0	0	37	33	1	0	54
国際介護学科	1(計)	20	22	0	0	0	22	13	0	0	13
デジタルソリューション学科	1	40	13	1	0	0	12	15	1	0	16
	2	40	0	0	0	0	0	－	0	0	12
	計	80	13	1	0	0	12	15	1	0	28
合 計		1020	738	51	3	30	654	190	3	30	655

I -2 教職員数

	令和6年度 期初	令和7年度 期初
学院長	1	1
理学療法学科 専任教員	12	13
作業療法学科 専任教員	6	6
看護学科 専任教員	13	12
介護福祉学科 専任教員	3	3
国際介護学科 専任教員	1	1
デジタルソリューション学科 専任教員	3	3
事 務	13	13
法 人	6	6
合 計	58	58

Ⅱ 年間行事実績

1.作業療法学科/理学療法学科

前期	4月	2日(火) 8日(月)~8月9日(金) 8日(月)~4月26日(金) 8日(月)~月26日(金)	入学式/保護者会 前期授業開始 PT学科最終学年 評価実習 OT学科最終学年 身体領域評価実習
	5月	18日(土) 20日(月)~7月12日(金) 20日(月)~7月12日(土) 23日(木)	第1回オープンスクール PT学科最終学年 総合臨床実習Ⅰ OT学科最終学年 長期実習Ⅰ(総合実習) 学校法人創立記念日
	6月	8日(土)	第2回オープンスクール 後援会総会(書面での決議)
	7月	6日(土) 13日(土) 20日(土) 25日(木)~26日(金) 29日(月)~9月20日(土) 29日(月)~9月20日(土) 29日(月)~8月10日(土) 27(土) 29日(月)~8月9日(金)	地域リハ.精神科評価実習SV会議(OT2.3年生) 第3回オープンスクール 地域リハ実習指導者会議(PT昼3年、夜2年) 最終学年 就職説明会 PT学科最終学年 総合臨床実習Ⅰ OT学科最終学年 長期実習Ⅱ(総合実習) 精神領域評価実習(OT3年生) 第4回オープンスクール 前期試験
	8月	3日(土) 17日(土) 21日(月)~30日(金)	第5回オープンスクール 第6回オープンスクール 前期試験(OT3年生のみ)
	9月	11日(水)~18日(火) 9日(月)~13日(金) 9日(月)~13日(金) 24日(火)	PT学科(昼3年、夜2年)地域リハビリテーション実習 前期再試験(OT3年生のみ) 地域リハ実習(OT2年生) 前期成績判定会議
後期	9月	30日(月)~2月7日(金) 28日(土)~29日(日)	後期授業開始 最終学年 就職説明会
	10月	12日(土) 26日(土)	指定校・高校推薦入試 自己推薦A・社会人A入試
	11月	2日(土) 16日(土)	立志祭/第7回オープンスクール 自己推薦B・社会人B入試
	12月	14日(土) 21日(土) 28(土)	一般入試前期、自己推薦C・社会人C入試 第1回入学前セミナー(OT.PT.PTN合同) 冬期休暇(1月5日(日)まで)
	1月	11日(土) 18日(土) 27日(月)~2月7日(金)	PT・OT学科3年生保護者会 一般入試後期、自己推薦D・社会人D入試 後期試験
	2月	3日(月) 24日(月)	最終学年卒業判定会議 第60回理学療法士・作業療法士国家試験

		22日(土)	自己推薦E・社会人E入試
	3月	4日(火) 7日(金) 11日(火) 15日(土) 14日(金) 22日(土) 25日(火)	第2回入学前セミナー(OT.PT.PTN合同) 卒業式 成績判定会議(1~3年) OT身体領域評価・長期実習 I II SV会議 自己推薦F・社会人F入試 第8回オープンスクール 第3回入学前セミナー(OT.PT.PTN合同)

《令和6年度 看護学科 年間計画》

月 日(曜)	行 事	備 考(担当他)	月 日(曜)	行 事	備考(担当他)
4月			10月		
	* 始業3/26(火)	3年生	7日(月)	⑦7領域別実習開始	3年生
2日(火)	入学式(県立劇場)	1年生	12日(土)	指定校・高校推薦入試	
3日(水)	始業	1～2年生	28日(月)	⑧領域別実習開始	3年生
8日(月)	①領域別実習開始	3年生	26日(土)	自己推薦・社会人A入試	
23日(火)	フィールドワーク～24日	1年生			
5月			11月		
2日(木)	新入生歓迎会(遠足)	1～3年	2日(土)	⑦7オープンキャンパス	
8日(水)	②領域別実習開始	3年生	15日(金)	宣誓式	1年生
18日(土)	①オープンキャンパス	1～2年生		保護者会	1年生
23日(木)	創立記念日	1～3年生	16日(土)	自己・社会人B入試	
24日(金)	看護の日	1～3年生	26日(火)	実習「対象を知る」～11/29	1年生
28日(火)	実習「療養環境を知る」～(2日間)	1年生			
6月			12月		
3日(月)	③領域別実習開始	3年生	14日(土)	一般・自己・社会人C入試	
8日(土)	②オープンキャンパス	1～2年生			
24日(月)	④領域別実習開始	3年生	日()	三者面談	1～3年生
7月			1月		
5日(金)	人間関係論～2日(学内)	1年生	14日(火)	①領域別実習開始	2年生
13日(土)	③オープンキャンパス	1～2年生	18日(土)	一般・自己・社会人D入試	
16日(火)	「看護のプロセスⅠ・Ⅱ～8/」	2年生			
27日(土)	④オープンキャンパス	1・3年生			
8月			2月		
1日(木)	官報告示(国家試験)	3年生	3日(月)	②領域別実習開始	2年生
3日(土)	⑤オープンキャンパス	1・3年生	7日(金)	結団式(案)	1～3年生
17日(土)	⑥オープンキャンパス	1～2年生	9日(日)	第114回看護師国試(未)	(官報にて)
26日(月)	⑤領域別実習開始	3年生	18日(火)	成績判定(卒業)会議(10時)	3年生
日()	ケース スタディ発表会	3年生	22日(土)	自己・社会人E入試	
9月			3月		
17日(火)	⑥領域別実習開始	3年生	6日(木)	入学前セミナー	1～2年生(新1年生)
			7日(金)	卒業式(県立劇場)	1～3年生
			11日(火)	合同実習指導者会議(10時)	
			13日(木)	成績判定会議(10時)	1～2年生
			14日(金)	自己・社会人F入試	
			22日(土)	⑧オープンキャンパス	1～2年生

* 保護者会・三者面談:各学年にて企画

* 学科会議 (1/月)

II-3 介護福祉学科年間行事

【介護福祉学科】

前期

4月	1日(月)	1年生	入学前オリエンテーション
	1日(月)	2年生	新学期オリエンテーション
	3日(水)	1、2年生	新入生オリエンテーション、 健康診断
	4日(木)	1、2年生	新学期オリエンテーション
	5日(金)	2年生	新学期オリエンテーション
	8日(月)	1、2年生	前期授業開始
	26日(金)	2年生	介護実習Ⅲ実習指導者会議
5月	13日(月)～6月18日(火)	2年生	介護実習Ⅲ (6/16, 17は医療的ケア見学)
	18日(土)		第1回オープンキャンパス
	23日(木)	1年生	学院創立記念日
6月	8日(土)		第2回オープンキャンパス
	19日(水)	2年生	学院創立記念日(5/23代休)
	22日(土)	1年生	福祉の就職総合フェア
	28日(金)	1年生	介護実習Ⅰ実習指導者会議
7月	7日(日)	留学生	JLPT(日本語能力試験)
	13日(土)		第3回オープンキャンパス
	15日(月)～26日(金)	1年生	介護実習Ⅰ
	27日(土)		第4回オープンキャンパス

後 期	8月	3日(土)		第5回オープンキャンパス
		5日(月)～9日(金)	2年生	前期試験
		9日(金)	1、2年生	前期授業終了
		17日(土)		第6回オープンキャンパス
		22日(木)	1・2年生	成績判定会議
		23日(金)	1、2年生	終業式
		24日(土)～9月1日(日)	1、2年生	夏期休暇
		30日(金)	2年生	後期授業オリエンテーション
	9月	2日(月)	1・2年生	後期授業開始
		27日(金)	1年生	介護実習Ⅰ実習報告会
	10月	11日(金)	1年生	介護実習Ⅱ実習指導者会議
		21日(月)～11月22日(金)	1年生	介護実習Ⅱ
	11月	2日(土)	2年生	第7回オープンキャンパス、立志祭
		9日(土)	1年生	介護実習Ⅱ中間登校日
		9日(土)	2年生	福祉の就職総合フェア
		10日(日)	2年生	「介護の日」イベント参加
		11日(月)	2年生	「介護の日」振替休日
		22日(金)	2年生	学力評価試験
	12月	1日(日)	留学生	JLPT(日本語能力試験)
		2日(日)	2年生	介護福祉士会全国一斉模擬試験

	日程(月)	学年	行事(月)
	9日(月)～12日(木)	2年生	後期試験
	20日(金)	1・2年生	年内授業終了
	21日(土)～1月5日(日)	1・2年生	冬期休暇
	23日(月)～27日(金)	2年生	国家試験対策特別講座
1月	6日(月)	1・2年生	授業開始
	6日(月)～24日(金)	2年生	国家試験対策
	24日(金)	2年生	国家試験オリエンテーション
	26日(日)	2年生	第37回介護福祉士国家試験
2月	10日(月)～14日(金)	1年生	後期試験
	3日(月)～6日(木)	2年生	医療的ケアの実践(集中講義)
	20日(木)	2年生	卒業判定会議
3月	5日(水)	1・2年生	卒業発表会
	6日(木)	2年生	卒業式予行演習
	7日(金)	2年生	卒業式
	13日(木)	1年生	進級判定会議
	22日(土)		第8回オープンキャンパス
	15日(土)～31日(月)	1年生	春季休暇

II-4 【国際介護学科】

前 期	4月	1（月）	入学前オリエン
		2（火）	入学式
		3（火）～5日（木）	新入生オリエン／健康診断
		8（月）～	前期授業開始／アルバイト面接
	5月	18（土）	オープンキャンパス①
	6月	8（土）	オープンキャンパス②
	7月	1（月）～5（金）	JLPT対策
		7（日）	JLPT①
		13（土）	オープンキャンパス③
		27（土）	オープンキャンパス④
		29（月）～8/2（金）	補講・前期試験
	8月	3（土）	オープンキャンパス⑤
		5（月）～9（金）	再試・再再試
		10（土）～9/16（日）	夏季休暇
		17（土）	オープンキャンパス⑥
		22（木）	前期判定会議
後 期	9月	17（月）	後期授業開始
	11月	2（土）	オープンキャンパス⑦／立志祭
		16（土）	CW学科編入試験
		25（月）～29（金）	JLPT対策
	12月	1（日）	JLPT②
		21（土）～1/13（月）	冬季休暇
	1月	14（水）	授業開始
		27（火）～31（金）	補講・後期試験
	2月	3（月）～7（火）	再試・再再試
		20（木）	卒業判定会議
		22（土）～3/30（日）	春季休暇
	3月	6（木）	卒業式予行・大掃除
		7（金）	卒業式
		10（月）～28（金）	進学準備学習会（週2～3回）

【デジタルソリューション学科】

前期	4月	2日(火) 8日(月)～8月2日(金)	入学式/保護者会 前期授業開始
	5月	18日(土) 23日(木) 24日(金)	第1回オープンキャンパス 創立記念日 情報関係企業との意見交換会
	6月	8日(土)	第2回オープンキャンパス
	7月	13日(土) 22日(月)～26日(金) 24日(水) 27日(土) 29日(月)～8月2日(金)	第3回オープンキャンパス 前期補講期間 第1回情報Ⅰ対策講座 第4回オープンキャンパス 前期試験
	8月	3日(土) 7日(水) 17日(土) 19日(月)～23日(金) 26日(月)～30日(金)	第5回オープンキャンパス 第2回情報Ⅰ対策講座 第6回オープンキャンパス 前期再試験 インターンシップ①
	9月	2日(月)～6日(金) 10日(火)	インターンシップ② 成績判定会議
後期	9月	30日(月)～2月7日(金)	後期授業開始
	10月	12日(土) 20日(土) 29日(火)	指定校・高校推薦入試 一般入試 カリキュラムのあり方検討会
	11月	2日(土)	第7回オープンキャンパス 立志祭
	12月	8日(日)	基本情報技術者修了試験 DS 学科日曜オープンキャンパス
	1月	22日(水)～31日(金) 26日(日)	後期補講期間 基本情報技術者修了試験 DS 学科日曜オープンキャンパス
	2月	3日(月)～7日(金) 17日(月)～21日(金) 25日(火)～28日(金)	後期試験 後期再試験 後期再再試験
	3月	7日(金) 11日(火) 18日(火) 22日(金)	卒業式 成績判定会議 編入試験 第8回オープンキャンパス

III-1 入学式

令和 6 年 4 月 2 日（火曜日）午前 9 時 30 分より
熊本県立劇場コンサートホールにおいて保護者、
来賓、学院関係者で令和 6 年度の入学式が挙
行された。作業療法学科 19 期生 24 名、理学療
法学科 19 期生 70 名、理学療法学科夜間部 19
期生 17 名、

看護学科 16 期生 67 名、介護福祉学科 14 期
生 20 名と新たに開設したデジタルソリューシ
ョン学科 1 期生 11 名を合わせ計 209 名が学
院長の河野文夫より入学の許可を受けた。自
治会長の小川寛人が在校生を代表し歓迎の辞
を述べ、新入生を代表して野村璃輝が新入生
代表宣誓を行った。



理学療法学科夜間部

学校法人 立志学園
九州中央リハビリテーション学院 令和6年度 入学式



看護学科

学校法人 立志学園
九州中央リハビリテーション学院 令和6年度 入学式



学校法人 立志学園
介護福祉学科 九州中央リハビリテーション学院 令和6年度 入学式



デジタルソリューション学科



宣誓式

日 時：令和 6 年 11 月 15 日（金）

9：30 開式

場 所：九州中央リハビリテーション
学院 1 号館 講堂

対象学生：第 16 期生 61 名

（男子学生 10 名、女子学生 51 名）

「宣誓式」その起こりは、近代看護の祖と言われる「フローレンス・ナイチンゲール」その人が所以である。我が国においては、「戴帽式」として長年執り行われてきた。儀式的印象が強く、現代ではそのあり方は多様化している。当学科では、令和 4 年度より「宣誓式」と名称を改め、ひとの命の尊厳に基づき、その生業そのものに対する畏敬と決意を確固たるものにする機会として継承している。

厳かな雰囲気の中、「宣誓の儀」が行われた。緊張した面持ちの学生達一人一人が「看護の精神」である灯を頂き、ナイチンゲール誓詞を全員で唱和した。

また、「一、正しい知識と技術を身に付けるために努力し、学び続けます。一、患者の言葉に耳を傾け、患者の思いに寄り添います。一、仲間と共に助け合い、日々支えてくださる方への感謝を忘れません。一責任ある行動をとり、信頼される看護師を目指します。」と自らの言葉で誓いをたてた。来賓として、熊本県看護協会副会長の永野智子様をお迎えし、協会長の本尚美様のご祝辞を代読頂いた。先輩からは「このナイチンゲールの灯りに込められた看護の精神と共に、この九州中央リハビリテーション学院看護学科で学んだ看護を誇

りに、絆を育み共に学び続けましょう」と激励を受けた。

多様化する社会の中で、18 才人口の低下や医療職離れが危惧される。今年度定員を満たさない中での「宣誓式」となったが、学生達の一人一人の凜とした表情からは、揺るぎない信念と希望が満ち溢れていた。どのような時代が到来しようとも、人でなければ成し遂げられないこの「看護」という仕事。若い学生達の価値に伝わる方法を見出し、未来に向け発展できるよう、私達教職員にとっても身の引き締まる式となった。

Ⅲ-3 第65回熊本県専修学校各種学校連合会スポーツ大会

県大会成績

	種目	性別	順位	氏名
団体	ソフトテニス	男子	優勝	-
	バレーボール	女子	準優勝	
	バスケットボール	男子	優勝	
	軟式野球	男子	準優勝	-
個人	テニス	男子	準優勝	田中
	ソフトテニス	男子	優勝	東田/村岡
			3位	杉本/浦口
		女子	準優勝	元村/砂原

第43回九州ブロック専門学校体育大会成績(宮崎)

	種目	性別	順位	氏名
団体	ソフトテニス	男子	準優勝	-

.....

Ⅲ-4 CW 在校生と卒業生の声

【介護福祉学科】

「1 年生を振り返って」

14 期生 田代銀平

「介護福祉士になりたい!」と思った私は、2 年間という短い期間で、国家資格を取得することができ、いち早く社会の役に立てるカリキュラムがある九州中央リハビリテーション学院に入学しました。

入学後はデイサービスでの初めての実習に向けて友人たちと演習や座学に必死に取り組む、実習初日を迎えました。ところが実習先において実習初日から自分の実力と専門的な知識の無さを痛感しました。そのため 1 回目の実習は反省点の多い実習となりました。しかしクラスメイトたちは全員同じ目標を持つ仲間で、みんなからアドバイスをもらい、また先生方からもご指導をいただきながら、10 月からの 2 回目の実習に備えました。その結果、できることも増え、1 回目の実習で課題だった専門的な知識不足は教科書や先生方から聞く等学習に励み、実習中それを実践し、2 回目の次週は満足のいくものとなりました。実習の課題の一つでもある介護過程の展開では、介護計画の重要性を理解することが出来ました。支援内容等利用者本位の計画を立てることが難しかったです。利用者様と、きちんと話し合わない、その人にとって必要なものではなく無理をさせてしまうことになるかもしれないという事を学びました。将来、現場で介護計画 作成に携わる際には十分に責任を持ち、利用者様と真摯に向き合うことが大切だということを学びました。2 回の実習の経験から、日々貪欲に学習に

取り組んでいます。

学院生活では、同じ目標を持つ者同士励まし合いながら頑張ることが出来、たくさんの友人たちに囲まれて毎日充実した日々を過ごしています。

2 年生で行なわれる実習は学生生活最後の実習となります。これまでの集大成として、学びをより深めるように努めたいです。また実習後に始まる国家試験対策や就職活動も、上手く両立できるように頑張りたいです。そしてクラスメイト全員笑顔で卒業式の日を迎えられるよう、与えられた課題・目標に対し最後までしっかりとやりとげることができるようこれからも精進していきます。そして、当初の目標である介護福祉士として社会に貢献できる人材になりたいと思います。

「2 年を振り返って」

介護福祉学科 2 年 吉武なずな

私の介護福祉学科での 2 年間は長いようで短い 2 年間でした。1 年生の 7 月からデイサービスにて最初の実習が始まり、まだ知識も介護技術もあまり習得していない状態で実習に行くのが物凄く怖かったのを今でも覚えています。

次の実習では初めての長期実習で介護計画や重度の方への介助など慣れないことが多く不安なことも多くありましたが、実習指導者の方、クラスメイトや巡回の先生にアドバイスをもらいながら、乗り越えることができました。

2 年生になると、本格的に国家試験の勉強が始まりました。模擬試験や過去問を解いていくうちに、本当に国家試験に合格できるのだろうかという不安が毎日いっぱい

したが、グループワークで教え合ったり、分からないことを先生方に質問したりして、クラス全体で乗り越えることができたと思います。その甲斐もあり国家試験も合格し学院も無事に卒業することができました。先生方にも恵まれ、大変だったですけど幸せな実りのある２年間でした。この２年間で学んだことを忘れず、利用者一人ひとりに寄り添った介護福祉士になれるよう、努力していきます。

【昼間部】

「一年生を振り返って」

理学療法学科昼間部2年 石井大空

昨年を振り返ると、勉強面や生活面で成長ができ、充実した1年であったように感じます。最初はクラスメートに馴染めるか不安や緊張もありましたが、今では全員が一致団結してテスト前には助け合い、協力して1年間乗り越えることができましたと思います。しかし、学校生活や友達とも慣れてきたこともあり、授業でのメリハリが出来ておらず、先生方から注意されたこともありました。そこで、後期からクラス目標として「メリハリをつける」という目標を立てました。その結果、気を引き締めて全員が授業に対し、真剣に取り組むことができました。

結果、クラス目標である「メリハリをつける」ことを達成出来たと思います。クラス目標として掲げた「メリハリをつける」ことは学院生活でとても重要であり、授業と休み時間で切り替えを明確にすることができました。「メリハリをつける」ことは仕事に就いたときでも同じだと思うので、今後も意識したいです。引き続き、クラス全体で積極的に授業に取り組んで、国家試験に向けて準備していきたいです。

「二年生を振り返って」

理学療法学科昼間部3年 小山純慎

1年生は、新しい環境、新しい学習内容に適応するのが大変な1年だった。そして学院生活に慣れてきた2年生の始め、私は中緩みしないことを目標に勉強と向き合うこととした。

試験対策を行う中で、1年生の時にはなかった問題に直面した。それは実技試験が実施される科目数が増えたことである。特に前期試験においては「体表解剖学」「運動療法学演習」「理学療法評価学Ⅱ」の3科目におい

て実技試験が実施された。どの科目もとても難しく、試験当日の朝方まで家族や従姉妹に協力してもらい試験対策を行った。その甲斐もあり3科目共に再試験を受けることなく単位を取得することができた。

後期には、友人関係がうまくいかず悩む時間があった。何をするにしてもやる気が起きなかった。趣味を楽しむこともできないほどで、遺憾ながら勉強に対しても手をつけることができなかった。それも影響したのか成績が大幅に悪化してしまった。しかし進級することができたのは、高校時代からの友人や家族が相談に乗ってくれる上に、再び理学療法士へ向けて歩みを進められるように励ましてくれたためである。

3年生では何を目的に学校へ通っているのか見つめ直し、悩んでいるとき励ましてくれた皆が喜んでくれるような姿を見せられるように、日々成長していけるような1年にしていきたい。

「三年生を振り返って」

理学療法学科昼間部4年 泉野愛実

三年次を一年間振り返って思ったことは、今まで学習してきた事の復習や、学んできたことを実際に治療プログラムに繋げたりするために理解を深める必要があると思いました。三年次は特に班活動が多く、みんなで協力してレポートやスライド作成を行いました。治療プログラムを考えたりする際に習ってきたことを活かして考える必要があり、基礎の勉強の大切さに改めて気付かされました。勉強面だけではなく、班活動が多いのでいかに班の人達と仕事を割り振って、期限内に終わらせるようにすることも大切だと思います。いろんな人がいるので、コミュニケーションをたくさんとって、意見を出し合い自分にはない考えを持っている人の話を聞くと、新しい視点に立って考えることができるので、私は班活

動は大切だなと思いました。しかし、中には他にも人がいるからという理由で班の仕事をやらない人もいます。そう言った人にも声をかけて仕事を割り振ることも大切だと思います。自分だけがやればいいわけでもなく、班全員が理解し、学べるようにすることが班活動で一番大切になってくるのではないかと私は思いました。最初の方はレポートやスライド作成をして実際何が身につくのか疑問な部分もありました。しかし、レポートやスライド作成を進めていくうちに今まで学習してきたことと繋がり、理解が深まるものも多くありました。なので、班活動や個人のレポートなどは全力で取り組んでみると自分の知識を深めることができると思います。他の人の意見や先生の意見を聞きながら自分に足りないことを調べて、これまで学習してきた事の復習をするといいと思います。四年次では、評価・総合臨床実習・就職活動・国家試験があります。三年間で学んできた事を振り返り、分からない、理解できていない、苦手な分野を自覚すること、また自分の興味のある分野を見つけて、実習を通して今後に繋げていけるといいなと思います。最後の一年はまずは実習先で実際に対象者の方に対して検査・測定などを行い、自分の技能面の向上や人間性、人との関わり方などについて学びたいと考えています。実習の後には国家試験に向けて、自分との戦いもあると思いますが、国家試験はチーム戦だとよく言われているので、17期生みんな与国家試験に合格し、仲良く卒業できるように助け合いながら頑張っていきたいです。

「最終学年を振り返って」

理学療法学科 昼間部 16期生 井上拓海

4年次は、これまで学院で学んだ基礎知識や技術を実際の医療現場で実践する長期実習に臨んだ。一人ひとりの患者様の病態を正確に理解し、ゴールを見据えたりリハビリテーションの難しさを痛感したと同時に、理学療法士を目指すことへの覚悟ができた。初めて親元を離れ、現地での実習指導の先生方や本学院の先生や友人、家族に感謝の念を持ちながら、厳しい実習を何とか乗り切ることができた。私にとって臨床現場での実習は、生活を通してかけがえのない経験であり、財産となった。様々な視点から、これから社会生活を送る上での自信につながったと振り返る。

約5か月間の実習を終えると直ぐに気持ちを切り替え、就職活動と並行して国家試験に向けた学習に取り組んだ。これまで一丸となり頑張ってきた学院の仲間達と今まで以上に支え合いながら、全員合格を目指し、全力を尽くした。私は本学院での4年間を通し、専門的な学習以外に多くの学びを得た。特に学級委員長や自治会役員としての活動体験はとても大きい。クラスマッチや文化祭などの企画、運営を行っていく中で多くの意見をまとめることは難しく、苦労もあったが課題を成し遂げるにあたり、多数の意見の集約や調和を図る等、リーダーとしての大切な役割を学ぶことができ、貴重な体験となった。この経験を無駄にすることなく、今後の生活にも活かしていきたい。

これからは国家資格である理学療法士としてのプライドを持ち、患者様の心身の機能回復に寄り添い、成長し続けたいと思う。また、本学院の先生方や共に学んだ大好きな学友との関わりを今後も大事にしながら切磋琢磨できたらと思う。

【夜間部】

「1年生を振り返って」

理学療法学科夜間部2年生 小山翔平

夜間部19期生として入学し2025年度現在、2年生に進級しています。以前よりアメリカンフットボール選手として競技に参加しており、スポーツ分野に興味を持っていました。入学直前に膝の手術を受けていたこともあり、スポーツ外傷やリハビリに関心を持っていましたが、入学して様々な分野を勉強していく中で理学療法士が活躍できる世界の広さを感じる事が出来ました。また、夜間部であり8:00～15:00は介護分野で働いています。17:00～は授業が始まるため単語帳アプリなどを利用して隙間時間を有効活用し勉強に取り組んでいます。膝の具合も徐々に良くなり、アメフト選手として競技復帰でき休日に練習や試合に出場するなど充実した日々を送れています。3年間という短い期間ですが勉強と仕事とスポーツ活動を両立し頑張っていきたいと思っています。

「2年生を振り返って」

理学療法学科夜間部3年生 桐原徹
私は理学療法士を目指して2年目を迎えました。1年目に基礎的な知識や技術を学び、ようやく理学療法士としての基盤ができたと感じる一方で、まだまだ学びが足りないことを実感しています。地域リハ実習も経験したこの2年目を振り返り、どのような成長をしたのか、また課題と3年生の目標について考えてみました。

2年目に入って、私の学びはより実践的な内容へと進んでいきました。2年生となり初めての実習ということで、5日間の地域リハ実習を行いました。実際の現場で働く理学療法士の先生にご指導を賜りながら勉強をさせて頂きました。介護保険の施設で働く理学療法士の方々がご利用

者様や地域に住む方々に対してどのように関わり、理学療法を行なっているのか学ぶことができましたが、同時に知識不足も痛感しました。

講義においては、症例をもとに、ICFを作成し、ゴール設定、阻害因子の抽出、関連図の作成、治療プログラムの作成と考察など基礎的な知識が求められるものから、検査や測定、ストレッチなどについて細かな手技や治療方法などの実践的な技術を学びました。その中でも重要だと感じたことが2つあります。まず一つ目は「目的の明確化」です。理学療法とは患者さんの症状や状態に基づき評価を行い、治療法を見つけ症状を改善するために行います。なぜその手技を行うのか、どの検査を行うことが最適かを理解し、それに基づいて行動することが理学療法士としての技術や判断力を高める鍵となることを学びました。2つ目は「原因の追求」です。患者さんの症状や疾患がどのように発生したのか、その根本的な原因を明らかにしなければなりません。単に表面の症状に対して治療を行うのではなく、その背後にある原因を特定して、改善を目指すことが求められます。そのためにより多面的・多角的な方向から症状と向き合い、ありのままの現象を受け入れることを学びました。

例えば、「肩が痛い」という患者さんに対して、その痛みが筋肉の疲労なのか、骨格に異常が起きているのか、神経の障害が原因となっているのかを判断することが現場では重要となります。原因が特定できれば先に述べた目的の明確化に繋がります。

この2つの重要な点を結びつけるのが、観察力と分析力であると考えます。患者さんの生活習慣、動作パターンを観察し分析、考察を行うことで症状が患者さんの生活にどのように影響しているのかを評価していくことが、この2つの重要な点

を結びつけていく上で大切であると考えます。さらに患者さんのニード、心理的要因、診察・検査結果など様々な要素を総合的に評価し、治療計画を立て、根本的な改善を目指す姿勢が患者さんにとって良い結果を生み出すことに繋がると学びました。

2年生を振り返り、様々な課題も浮き彫りになりました。1つ目は基礎的な知識への理解です。よく先輩方から「もう一度1年生をやり直したい」との話を聞いたことがあります。こういうことか、と痛感しました。講義の中で症例に対し、どういった治療を行っていくのか？そのためには解剖学や生理学などの基礎的な知識を基に治療プログラムを立てていかなければなりません。やはり知識そのものが不足しているため図書室などで本を読み、試行錯誤しながら講義やレポート作成をしていました。2つ目は分析力です。先ほど述べた目的の明確化と原因の追求のためには分析力は欠かせませんが、特に動作分析においては、正常との違いそのものは理解できるのですが、どこが障害を受けているからこのような動作になる。という動作に対する言語化の表現が非常に難しく感じました。

これから最終学年である3年生を迎えるにあたり、臨床実習が始まります。この実習では、指導士の先生の臨床推論に触れさせていただき、実践的な理学療法のプロセスを学んでいくこと、さらに国家試験に合格することが目標となります。

課題の克服や、目標の達成のためには、計画的な行動が鍵となります。時間は有限です。1日の勉強量や体調管理など様々な面に注意しながら、これからの1年間、精一杯取り組んでいきたいと思います。

「最終学年を振り返って」

理学療法学科 夜間部 17期生 濱 泰祐

最終学年での1年間は臨床実習、国家試験対策がメインでした。臨床実習では実際に患者様の評価や理学療法を実施させていただきとても内容の濃い実習となりました。いろいろな疾患の患者様を見学させていただきました。手技や知識もとても勉強になりましたが、指導者の先生方と患者様との接し方、やりとりがお互いに信頼関係を築いており、安心した環境の中で理学療法を提供している場面がとても印象的で勉強になりました。辛いリハビリ生活でネガティブになっている患者様に寄り添って話を聞いたり、時には前向きな声掛けをしたり身体面、精神面にアプローチしたり、患者様が自宅に復帰してから今までの生活が過ごせるように生活面まで考慮して考える「患者様ファースト」の考えも勉強になりました。自分は身体的な機能面ばかりにフォーカスし過ぎていたので自分の視野や思考の狭さを実感させられました。また、教科書や参考書に載っている理念型や標準型に近づけることが患者様にとって良いこととは限らないことも実習で学びました。そのためには患者様の声にしっかり耳を傾ける傾聴が必要で、これが簡単なようで一番難しいと感じました。

臨床実習が終了して、国家試験対策になってからは昼間部の学生との関わりも多くなってきました。私は夜間部、昼間部の中で一番年齢が高く、一周り以上年齢が離れている学生達とうまく学習を進められるか心配でしたが、気さくに話しかけていただきすぐに心配や不安もなく勉強に取り組むことができました。毎日、グループで勉強を教え合う中でチームワークもよくなり、お互いが支え合い励まし合えたことで、5か月間の国家試験対策を乗り切ることができました。ま

た、先生方や卒業生からの応援メッセージ、差し入れなどもとても励みになりました。自分一人の力ではここまで来ることはできず、多くの方々に支えられて今の自分があると改めて実感しました。

最後に、春から総合病院に就職予定です。自分が関わる患者様や地域に貢献できるように「自分には何ができるか?」を常に考えながら、失敗を恐れずに責任と自覚を持って行動していきたいと思います。九州中央リハビリテーションに入学し、色々な経験をされた人たちと一緒に学べたことは自分にとっての財産です。これからも縦のつながり、横のつながりを大事にして助け合いながら成長できればと思います。おこがましいですが、理学療法士という素晴らしい職業で、仕事を楽しみながら、自分自身や周りの人々が幸せになれるようにこれから精進していきたいと思います。

2年間を振り返って

看護学科2年 倉野尾 光華

看護学生としての2年間を振り返ると、毎日が忙しく、まるで秒で日常が過ぎていくような日々だった。夢に向かって仲間と共に全力で駆け抜けた、そんな時間だったと思う。入学当初は、早く看護師になりたいという思いと、演習や実習はどんなものだろうという期待に胸を膨らませていたのを覚えている。実際に入学してみると、高校時代とは違う専門的な分野に足を踏み入れ、頑張ろうという気持ちはあるものの、医療現場のイメージがつかず。看護師を目指すという実感がなかなか湧いてこなかった。しかし、宣誓式で誓いの言葉を唱和した時、「命に関わる責任ある仕事に就く」と決意を新たにした。生半可な気持ちではいけない、努力して立派な看護師になるんだと気持ちが奮い立った。それから、朝から勉強に励む仲間達に刺激を受け、「自分も頑張らなくては」と懸命に努力を重ねてきた。演習、グループ発表、実習にテストが重なる日々に頭がいっぱいになり、弱音を吐いて両親に感情をぶついたり、疲れて泣きそうになることもあった。しかし、そんな時に思い出すのが、受け持たせて頂いた患者様の言葉だった。「本当にありがとう。これから、頑張るんだよ」この頂いた言葉に、どんなに辛くても「もっと勉強して、力になりたい。」と心から思った。疾患と向き合い、身体的にも精神的にも辛いはずなのに笑顔で温かい言葉をかけて下さる患者様の存在が、私の看護への道を揺るぎないものにし、強く導いてくれる原動力となっている。

この2年間で、どんなに短い時間でも勉強を続ける習慣が身に付き、通学中でも自然と看護の事を考えるようになった。

また、いつも支えてくれる仲間の存在や同じ目標に向かって励まし合い協力し合える関係に何度も救われた。

3年生も間近となった今、時間管理や礼儀、仲間との団結力等これまで、経験し学んできた事がしっかり今に繋がっていると感じている。これから始まる3年生8クルーの実習、患者様との出逢いに感謝し、看護学生として未熟な援助だが全力で頑張るつもりだ。今後、自分自身がどれだけ成長できるか、そしてどれだけ理想の看護師像に近づけるのか、今からとても楽しみだ。

1年生を振り返って

看護学科1年 上 藍子

2年生も間近となり、今あらためて感じている事や学んだことを述べたいと思います。入学したばかり頃は、これから看護師に成るために色々なことが学べる期待や楽しみの気持ちがある反面、勉強とプライベートとの両立が上手くできるか、学校生活に慣れるかなど様々な不安がありました。しかし、時が経つにつれ、一緒に高め合える仲間も増え、わからない所があったら教え合ったり、テスト期間も励まし合ったりと、充実した毎日を過ごすことができました。

また、実習を通して、患者様の事だけでなく、療養環境や看護師さんの援助場面や関わりを実際に目の前で学ぶことができ、自分の中で「もっと、色々看護の事が知りたい、できるようになりたい」と強く思うようになりました。

2年生になると、授業内容のレベルが上がってきて、1年次の基礎がとても重要になると思います。これまでの学習方法では、いずれついていけなくなると、少し危機感も感じています。家庭学習の時間をこれ迄以上に増やし、予習や復習を徹底して行いた

いと思っています。また、学校生活も呼びかけを受けての行動が多かったので、中堅学年としての自覚と責任ある言動を心がけたいと思います。例えば、時間をよく確認して 5 分前行動をとり、声掛けをしたり、また色々な場面でメモを取り、忘れ物や間違いがないようにしたいです。

また、2 年生としての 1 年間は、3 年生に成る前の大切な準備期間だと教えて頂きました。自分で努力するのは勿論ですが、一緒に乗り越えていける仲間や親身に応えて下さる先生方がたくさん居られるので、力をお借りし、もっともっと成長していきたいです。不安はありますが、「看護師に成る」という強い意志はしっかり持っているので、自身が思い描く理想の看護師に成れるよう、1 日 1 日の学校生活の全てを大切にしながら、先輩方を見習い勉学に励んでいきます。

1 年を振り返って

作業療法学科 2 年 杉山葵

私が九州中央リハビリテーション学院に入学してから 1 年が経ちました。

この 1 年間で、たくさんのことを学ぶことができました。新しい環境の中で勉強の内容についていけず不安もありましたが、同じクラスの仲間と協力し助け合いながら毎日の学校生活を送れたと思います。

1 年生の時の勉強は、作業療法士に必要な基礎知識の授業が多く、テストが近づくとみんな必死に課題や復習に取り組んでいる姿が見られました。ただ覚えるだけでなくしっかり理解をしながら覚えることを意識して勉強を行っていました。しかし、覚える量が多く内容も簡単ではありませんでした。高校までの勉強とは違い、専門用語などの覚える難しさを改めて感じました。それでも先生に質問したり、先輩からのアドバイスをもらったり、生徒同士で教えあったりなどそれぞれみんなが理解を深めあってテストに挑みました。テストが終わっても思うような結果じゃなかった人に直接教えたりするなど、みんなで助け合う場面が見られました。色んなことがありましたが全ていい経験となりました。また先生方や家族、クラスの仲間のありがたみを感じることができました。

2 年生での勉強は、今までの積み重ねだと思っています。1 年生時の内容よりもさらに深くなり難しくなると思います。授業中の理解だけでなく予習や復習にも取り組んでテストでよりいい結果が出るようにみんなで頑張りたいと思います。加えて今年から実習が始まります。身だしなみや礼儀

に常に気をつけ、思いやりの心を持つことを忘れずに実習に挑みたいと思います。日頃の学習がどれだけ大事なのかを知るきっかけになればいいと感じています。また、実際に医療現場を目で見て新しい学びや経験を得ていきたいです。これからも、責任と自覚を持って行動し、仲間と助け合いながらそれぞれの夢に向かって日々努力し続けたいと思います。また、家族や先生方仲間、関わってくださったすべての人に感謝して 1 日 1 日を大事に過ごしたいです。

2 年生を振り返って

作業療法学科 3 年 宮地遥奈

2 年生としての 1 年間は、学院生活にも慣れてきて、レポート課題も増え、忙しくも充実した日々を過ごすことができ、とても早く時間が過ぎたように感じました。

この 1 年間で特に印象に残っていることは 2 つあります。1 つ目は、体表解剖学の実技試験前に放課後に同じクラスの友達と学校に残って練習をしたことです。授業の復習をしながら実技の練習を行い、休みの日にも何人かで集まって練習をしました。お互いに教え合いながらすることで理解を深めることができ、教え合える友達の大切さを実感しました。そして、先生方にもアドバイスを頂きながら何度も繰り返し練習に励み、試験では緊張感を持ちつつ自信を持って取り組むことが出来ました。

2 つ目は、1 週間の地域リハ実習に行ったことです。初めての实習で、利用者さんや病院のスタッフの皆さんとうまくコミュニケーションをとることができるか、不安と緊張でいっぱいでした。実際に利用者さんとお話すると、快く対応してくださる方も居られ、自分が想像していたよりもとてもスムーズにコミュニケーションが取れ、日が経つにつれ緊張が解けていきました。しかし長く会話を続けることができず沈黙する時間もあり、自分のコミュニケーション能力が不足していると痛感しました。このことを経験し、事前に話題をいくつか考えるなどして対策をしながら取り組みました。また、実際に臨床で働く作業療法士の姿を見て、作業療法士が医療でどういう役割を担っているかなど日頃の授業だけでは学ぶことができないようなことを見て学ぶことができ、とてもいい経験となりました。そして、利用者さんに丁寧な対応をしている姿を見てリハビリに携わる責任を感じ、さらに利用者さんと向き合うことの難しさも学びました。この実習で作業療法士を目指す学生としての自覚がさらに芽生えたと思います。

進級し、国家試験も約 2 年後となりました。まだ先のことだと思わず 3 年生のうちから、講義中に国家試験に出題されることがあるなど言われたところをメモしたり、過去の国家試験の問題を解いたりして、少しずつ対策を進めていきたいです。また、これまでに学んだ基礎的な知識と技術を振りかえり、精神科実習に向けて学びを深めていきたいと思っています。

3 年次を振り返って

作業療法学科 4 年 宮部 栞

入学以来、早いもので、もう 4 年次を迎えることとなりました。3 年次における精神領域評価実習や日々の授業を通して、作業療法士になる者としての心構えが徐々に形成されてきたと実感しております。このように作業療法士になる自覚が芽生えた 3 年次の活動について報告させていただきます。

3 年次においては、1・2 年次で習得した基礎知識をもとに、実際の症例情報から自分たちで目標設定や治療計画を立案する実践的な授業を中心に行いました。1・2 年次で学んだ解剖や評価の知識は不可欠であり、多くの場面でさらなる学習の重要性を痛感いたしました。外部講師を招いた授業においても臨床経験に基づいた内容であり、上記した、治療計画に加えて、各領域における作業療法の管理や運営について学ぶ事ができ、さらに臨床現場における仕事内容についてのイメージを形成する事ができました。3 年次の授業を通じて、作業療法についてより深く理解を深める事ができました。さらに 3 年次は学習班での活動が頻繁に行われ、個性豊かなクラスメイトの中で、班長や副班長として、どのようにすれば班員の能力を最大限に引き出せるかを検討する事もありました。このようにクラス運営・班運営を通して、班内での協力やアサーティブなコミュニケーション方法を学び、経験する事ができました。医療では他職種との連携が重要とされているため、学生の時からこのような経験を積むことができ、将来、役立つものになったと思いま

す。

この 1 年を通して、「国家試験合格」という目標に向かってクラスとしてのまとまりがでてきたように感じました。本年度は学院で過ごす最後の 1 年となります。身体領域評価実習、長期実習、就職活動、国家試験など様々な山場を超えていかなければなりません。目の前の課題一つ一つに真剣に向き合い、取り組んでいきたいと思えます。そして、4 年間切磋琢磨してきた仲間達と共に作業療法士になりたいと思いま

4年生を振り返って

作業療法学科 蓑田響

九州中央リハビリテーション学院作業療法学科
4年生として、私が過ごした1年間を振り返ると、
臨床実習の中で就職活動を行いながらの国家試験
勉強など怒涛な生活を送り、厳しい経験や実習の
中で考えられる経験も沢山ありました。

臨床実習では、今まで学習した内容を教科書や
授業スライドを確認し、時には文献を調べ自分の
症例と照らし合わせながら評価・治療を考える
日々でした。患者さんとのコミュニケーションが
うまくできず無言になる場面、治療や評価が順調
にいかず涙してしまう日といった悔しい経験も多
くしました。しかし、辛い日々の中で患者さんか
らの「ありがとう」「あなたの元気な挨拶でいつ
も頑張れる」といった言葉を頂き自分の中でこ
こまで頑張ってきてよかったと感じました。実習の
中で身体機能面だけに着目するのではなく、患者
さんの自宅での生活スタイル・ADL面を知る事
で退院後も本人らしく生活を過ごしてもらえるよ
うにリハビリの介入を行なっていく事が大切だと
学ぶ事ができました。

国家試験勉強では、グループ学習を行い、リー
ダーを中心にみんなで助け合いながら勉強を行い
合格を目指しました。勉強を始めた数ヶ月は必死
に勉強するも点数が伸びず焦る日々が続き、「自
分はもう無理だ」と何回も思い挫けそうになりま
した。しかし、グループの中で点数の高い人の勉
強方法や覚え方、考え方を聞き、模倣する事で点
数が少しずつ向上してきました。また、自分と同
じ悩みを持つ人に伝え合う事で助け合い乗り越え
てきました。「困っている事は相手に聞き相談す
る」という事は簡単にできるようで意外と難し
く、実行できません。しかし、一步勇気を出し声
掛ける事で自分が今までできなかった事ができる
ようになり、新しい発見に出会えるといった事を
この期間では学び、自分の中で成長する事ができ
感謝しています。

この1年間は臨床実習や国家試験勉強といった慣れ
ない環境下で辛い事・大変な事が多くありまし
たが、その分沢山の経験をした事で学びを得て、国家
試験合格・卒業といった事ができ、自分としても誇
らしく思っています。ここで学んだ知識・技術・経験
を活かし、作業療法士として成長し、患者さんの生
活に寄り添い、その人らしい生活が送ってもらえる
ように自分自身も常に考え・成長し精進していき
たいと思います。

Ⅲ-5 ボランティア活動

学生自治会のボランティア委員会、介護福祉学科ボランティアサークルクローバーを中心に積極的にボランティア活動を行っております。

	日程	活動場所	活動内容	参加者
1	4月25～26日	スペシャルオリンピックス	運営のサポート	3
2	5月12～13日	スペシャルオリンピックス	運営のサポート	7
3	9月8日	NPO法人あやの里	納涼祭の準備、利用者のサポート	4
4	10月26日	平成学園	会場設営、利用者のサポート	6

Ⅲ 学生生活

Ⅲ-6令和6年度就職説明会(理学療法学科・作業療法学科)来校型

日時:7月25.26日 9月28.29日 15時～17時 場所:九州中央リハビリテーション学院1号館

参加施設

都道府県	施設名	都道府県	施設名
熊本	熊本託麻台リハビリテーション病院	千葉	湯山整形外科(オンライン)
	東病院		亀田総合病院
	リハビリテーションセンター熊本回生会病院		安房地域医療センター
	桜十字八代リハビリテーション病院		らいおんハート内科整形外科リハビリクリニック
	青磁野リハビリテーション病院		行徳総合病院
	水前寺とうや病院		富家千葉病院
	西日本病院		季美の森整形外科
	平成とうや病院		成田富里徳洲会病院
	朝日野総合病院		タムス浦安病院
	熊本機能病院・介護老人保健施設清雅苑	東京	タムスさくら病院江戸川
	すまいる新地		初台リハビリテーション病院
	済生会熊本病院		春山記念病院
	桜十字熊本宇城病院		東京ちどり病院
	悠紀会病院		リハビリ特化型デイサービスリハテラス
	桜十字病院		五反田リハビリテーション病院
	天草慈恵病院		田中脳神経外科病院
	聖ヶ塔病院	埼玉	富家病院
	山鹿温泉リハビリテーション病院		戸田中央メディカルケアグループ(TMG)
	天草セントラル病院、天草厚生病院		イムス三芳総合病院
	武蔵ヶ丘病院	神奈川	イムス横浜狩場脳神経外科病院
	八代敬仁病院		海老名総合病院・座間総合病院
	平井整形外科リハビリテーションクリニック		鶴巻温泉病院
	くまもと芦北療育医療センター		医療法人社団慶晃会
	くまもと成仁病院	大阪	青山メディカルグループ
	リハビリセンターsmile-スマイレ-光の森		アクティブ訪問看護ステーション
	阿蘇温泉病院		医誠会国際総合病院・摂津医誠会病院
	にしくまもと病院		馬場記念病院
	整形外科井上病院		医療法人吉栄会
	介護老人保健施設 みつぐ苑	京都	医療法人社団洛和会
	寺尾病院		京都大原記念病院グループ
	成尾整形外科病院		京都リハビリテーション病院
	人吉リハビリテーション病院	福岡	福岡新水巻病院
	くまもと南部広域病院		聖マリア病院
	杉村病院		久恒病院
	保田窪整形外科病院		高邦会グループ
	江南病院		済生会八幡総合病院
	宇城総合病院		福岡みらい病院
	介護老人保健施設なすび園	佐賀	副島整形外科病院
	介護老人保健施設リバーサイド御薬園	大分	佐賀関病院
	株式会社SHIFT		大場整形外科
	菊南病院		天心堂 へつぎ病院
	吉田せきつい整形外科・松原第2クリニック	長崎	白十字会リハビリテーション部
	球磨郡公立多良木病院		長崎リハビリテーション病院
	球磨病院	宮崎	小林市立病院
	九州記念病院	鹿児島	クオラリハビリテーション病院
	熊本セントラル病院		青雲会病院
	熊本整形外科病院	沖縄	同仁病院
	桜が丘病院		沖縄リハビリテーションセンター病院
	社会福祉法人 駿光会		西崎病院
	城ヶ崎病院		社会医療法人かりゆし会
	大阿蘇病院		
	谷田病院		
	嶋田病院		
	特定医療法人萬生会		

Ⅲ-7就職

【理学療法学科 昼間部・夜間部 作業療法学科】
令和6年度の卒業生は理学療法学科昼間部58名、夜間部20名、作業療法学科35名の計113名であった。
それに対し、総求人件数は471件、総求人数は3,944名であった。

【求人状況】

地域	県別	求人 件数	求人 数
九州	熊本	97	319
	福岡	53	202
	長崎	11	33
	佐賀	12	27
	大分	20	69
	宮崎	7	11
	鹿児島	18	93
	沖縄	8	58
四国	愛媛	1	10
	徳島	1	100
中国	山口	4	12
	広島	7	49
	岡山	1	2
	島根	2	2
近畿	和歌山	2	14
	奈良	4	14
	兵庫	13	144
	大阪	33	267
	京都	11	152
	滋賀	1	13
東海	愛知	2	40
	静岡	3	56
	岐阜	2	5
北信越	福井	1	6
関東	神奈川	41	351
	東京都	51	1,170
	千葉	36	396
	埼玉	23	231
	茨城	3	17
	栃木	1	20
東北	岩手	1	12
北海道	北海道	1	49
合計		471	3,944

【就職先】

作業療法学科	
県別	就職先
熊本	西日本病院
	熊本託麻台リハビリテーション病院
	東病院
	天草セントラル病院
	山鹿中央病院
	熊本セントラル病院
	こどもL.E.C.センター
	天草慈恵病院
	天草病院
	桜が丘病院
	青磁野リハビリテーション病院
	水前寺とうや病院
	熊本赤十字病院
	済生会熊本病院
	平成とうや病院
	熊本機能病院
	くまもと成城病院
	向陽台病院
	自由が丘病院
	阿蘇医療センター
東京	大内病院
千葉	行徳総合病院
大阪	もりぐち清水会病院
福岡	福岡脊椎クリニック
鹿児島	クオラリハビリテーション病院
理学療法学科 夜間部	
県別	就職先
熊本	聖ヶ塔病院
熊本	西日本病院
熊本	熊本回生会病院
熊本	熊本総合病院
熊本	御幸病院
熊本	桜十字病院
熊本	児童デイサービスKoiro
熊本	成尾整形外科病院
熊本	武蔵ヶ丘病院
熊本	メディケア癒し長嶺
熊本	鶴田病院
熊本	保田窪整形外科病院
大阪	原田整形外科クリニック
京都	京都九条病院
福岡	独立行政法人国立病院機構 九州
鹿児島	クオラリハビリテーション病院

理学療法学科 昼間部	
県別	就職先
熊本	西日本病院
	吉田せきつい整形外科・松原第2クリニック
	にしだ整形外科
	菊南病院
	桜十字病院
	くまもと成城病院
	熊本セントラル病院
	朝日野総合病院
	竹下外科整形外科医院
	保田窪整形外科病院
	宇城総合病院
	うえの整形外科クリニック
	くまもと県北病院
	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
	天草中央総合病院
	熊本総合病院
	桜十字八代リハビリテーション病院
	聖ヶ塔病院
	青磁野リハビリテーション病院
	九州記念病院
	熊本託麻台リハビリテーション病院
	十善病院
	甲斐整形外科
	杉村病院
	嶋田病院
	済生会熊本病院
	平成とうや病院
	くまもと南部広域病院
	南部中央病院
東京	総合東京病院
千葉	行徳総合病院
千葉	亀田総合病院
神奈川	たちばな台病院
大阪	馬場記念病院
大阪	青山メディカルグループ
福岡	福岡リハビリテーション病院
福岡	誠愛リハビリテーション病院
大分	大場整形外科
長崎	長崎リハビリテーション病院
長崎	松岡病院
鹿児島	クオラリハビリテーション病院

Ⅲ-7就職

【看護学科】

令和6年度の卒業生は69名であった。

それに対し、総求人件数は217件、総求人数は4,980名であった。

【求人状況】

地域	県別	求人件数	求人数
九州 131件 1,476名	熊本	71	486
	福岡	34	686
	長崎	7	93
	佐賀	3	21
	大分	5	21
	宮崎	2	9
	鹿児島	8	100
	沖縄	1	60
中国 4件 8名	広島	3	7
	山口	1	1
近畿 22件 930名	奈良	1	80
	和歌山	1	10
	兵庫	5	155
	大阪	12	599
	京都	3	86
東海 9件 378名	愛知	4	131
	静岡	4	246
	岐阜	1	1
関東 50件 2,187名	神奈川	11	446
	東京	23	954
	千葉	8	370
	埼玉	5	346
	栃木	3	71
北海道 1件 1名	北海道	1	1
合計		217	4,980

【就職先】

県別	就職先
熊本	くまもと森都総合病院
	熊本機能病院
	くまもと県北病院
	人吉医療センター
	熊本中央病院
	熊本医療センター
	熊本大学病院
	熊本地域医療センター
	西日本病院
	益城病院
	熊本市市民病院
	熊本赤十字病院
	熊本南病院
	あけぼの第2クリニック
	くわみず病院
	井上医院
	宇城総合病院
	九州記念病院
	熊本再春医療センター
	熊本託麻台リハビリテーション病院
	済生会熊本病院
	桜十字八代リハビリテーション病院
	土井内科クリニック
	嶋田病院
東京	順天堂大学医学部附属順天堂医院
神奈川	湘南鎌倉総合病院
大阪	大手前病院
	箕面市立病院
福岡	国際医療福祉大学・高邦会グループ
	小倉記念病院
	福岡輝栄会病院
	福岡赤十字病院

Ⅲ-7就職

【介護福祉学科】

令和6年度の卒業生は17名であった。
それに対し、総求人件数は196件、総求人数は957名であった。

【求人状況】

地域	県別	求人件数	求人数
九州 115件 251名	熊本	77	140
	福岡	24	57
	佐賀	3	13
	長崎	2	7
	大分	3	19
	宮崎	1	2
	鹿児島	5	13
中国 3件 23名	岡山	2	3
	山口	1	20
近畿 15件 67名	兵庫	4	24
	大阪	10	35
	京都	1	8
東海 7件 18名	愛知	7	18
北信越 1件 5名	福井	1	5
関東 19件 184名	千葉	1	3
	神奈川	7	29
	東京	9	143
	埼玉	2	9
合計		160	548

【就職先】

県別	就職先
熊本	特別養護老人ホーム こぼり苑
	特別養護老人ホーム 輝祥苑
	グループホームあやの里
	グループホーム郷
	しょうぶ苑グループ
	介護老人保健施設 フォレスト熊本
	介護老人保健施設 ぼたん園
	熊本再春医療センター
	社会福祉法人 リデルライトホーム
	社会福祉法人 熊本東翔会
	特別養護老人ホーム しらぬい荘
	特別養護老人ホーム つつじ山荘
	特別養護老人ホーム 桜の丘

Ⅲ-7 卒業式・学生表彰

令和7年3月7日（金曜日）来賓、保護者、学院関係者が見守る中、熊本県立劇場 コンサートホールにて卒業式が挙行された。作業療法学科16期生35名、理学療法学科16期生58名、理学

療法学科夜間部17期生20名、看護学科14期生69名、介護福祉学科13期生17名の計199名に対し卒業証書を授与した。また関係団体等から表彰が授与された。

（表1）

学生表彰（表1）	作業療法学科	理学療法学科	理学療法学科 夜間部	看護学科	介護福祉学科
全国リハビリテーション 学校協会「優秀賞」	吉永百花	作田真也	濱 泰祐	🌸	🌸
日本理学療法士協会 「優秀賞」	🌸	大津沙織	吉田朋子	🌸	🌸
日本作業療法士協会 「優秀学生証」	黒田愛花梨	🌸	🌸	🌸	🌸
日本介護福祉士養成施設 協会「会長表彰」	🌸	🌸	🌸	🌸	吉田風沙
財団法人職業教育・キャリ ア教育財団「学習者表彰」	松藤 翔	永迫光来	藤本卓巳	小林優太	小谷真凜
九州作業療法士学校連絡 協議会「学業優秀賞」	稲尾美舞	🌸	🌸	🌸	🌸
熊本県専修学校各種学校 連合会会長表彰	瀬川 響	嶋田 賢	白石 凜	井手口七海	吉武なずな
熊本県作業療法士会 「会長賞」	木村美仁	🌸	🌸	🌸	🌸
熊本県介護福祉士会 「会長賞」	🌸	🌸	🌸	🌸	亀丸雅斗
学校法人立志学園 理事長表彰	井上 昂	小川寛人	坂越青陽	米原智也	小澤沙也
九州中央リハビリテーシ ョン学院後援会会長表彰	蓑田 響	小畑雅顯	田中達哉	赤池未妃	田中優希



理学療法学科

令和6年度 学校法人 立志学園
九州中央リハビリテーション学院 卒業式



理学療法学科夜間部



看護学科

令和6年度 学校法人 立志学園
九州中央リハビリテーション学院 卒業式



介護福祉学科

令和6年度 学校法人 立志学園
九州中央リハビリテーション学院 卒業式



IV教育活動

1 作業療法学科・理学療法学科

【作業療法学科】

学科の特徴的な取組・実績

新型コロナウイルス感染症は、4年が経過し学内授業では影響がなかったものの、実習においては4年次の長期実習2期目の開始時、3施設で院内感染の影響でスタートが1週間遅れた。2週間前の体調管理等は、継続し実習先へのリスク低減を極力図るなどし、学内実習を行うことなく全ての実習が予定遂行できた。ほか、学内行事、学外行事とも予定通り行えた。

(横断的取り組み)

①4月4日(木)

「第2回 下剋上国家試験模試」

2年生か4年生まで、国家試験の日程に準じて国家試験模試を実施した。新年度の学習意欲向上を狙い、試験の名の通り、上級学年のトップを越えた3名を表彰した。

②4月23日(火)

「1年生2年生の交流レクリエーション」

学校生活に早く馴染んでもらうことを目的に実施。今年度は、「学校生活について」「学習について」2年生からレクチャーを受け、1年生から質問する形式のグループでの交流形式を行った。

③6月17日(月)

1年生「OT概論」、3年生「日常生活活動学」で合同授業3年生から車いす操作・介助、杖の操作などレクチャーしてもらった。

④7月

「1年、2年合同での基礎作業学実習」

1年「作業療法学概論」、2年「基礎作業学実習Ⅱ」の授業の一環で実施し、1年生を患者役として2年生のコミュニケーション能力および指導力向上を図った。

⑤10月～11月

「2年、3年合同で高齢者施設でのグループ訓練実施」

学院関連の高齢者施設を1年生、3年生が班ごと訪問し、体操やゲームを通じて交流を行った。また、インタビューを通して情報収集を行い作業療法プログラムの立案を行った。訪問前には、事前の体調管理、N95マスク着用等、感染対策を徹底した。

⑥1月

「高齢者施設での取り組みについての報告会」

授業に一環で行った高齢者施設でのグループ訓練の成果や作業療法プログラムについて2年生、3年生合同報告を行い、意見交換をし、知識を深めた。

(各学年の取り組み)

(1 年) 担任：亀尾 香珠代、副担任：赤石 めぐみ：2 年生への進級率 (83.3%)

1) 体調報告および欠席等の連絡の徹底

安易に欠席しないようメールではなく、電話による連絡を徹底していたが、1 月頃より事務の負担軽減のためグーグルホームからの電子報告に替わり、欠席者が明らかに増加した。次年度から学院の生活スタイルになれるまでの前期期間は、学科携帯に連絡するように指導することにした。

2) 学習習慣の確立

解剖生理学や運動機能学の小テストを実施、また基礎セミナー、ホームルームを活用し解剖生理学、運動機能学の課題で勉強の仕方の指導並びに学習習慣の確立を促した。

3) 職業・資格に対する早期意識づけ

「作業療法概論」の授業や他学年との合同授業を通じ、作業療法学科全教員が輪番制で授業を行い。それぞれの専門分野の立場から作業療法についての魅力を伝え、学習意欲を刺激した。専門職としての意識付けを早期に行うために、10 月 13 日 (日) の「2024 パラスポーツフェスタ くまもと」にボランティアとして作業療法学概論演習の授業の一環で参加し障害者とふれあう機会を設けた。

4) 個別面談並びに保護者面談の実施

新しい学習生活に早期に馴染むように、また継続できるように年間を通して個別面談を計画的に実施した。また、欠席が目立ってきた学生など問題が生じた学生の保護者への連絡も密に行い、状況により学生・保護者・担任・学科長による四者面談も行った。

(2 年) 担任：本田 直：3 年生への進級率 (85.2%)

1) 1 年生に対して、学院生活や勉強法についてレクチャー

2) 1 年生をモデルに患者支援体験

3) 学院関連の高齢者施設での体操・脳トレの実施体験

4) 地域リハ関連施設での 1 週間の実習

(3 年) 担任：大塚 開成：4 年生への進級率 (79.9%)

1) 1 年生に対する指導体験

コミュニケーション能力の向上を図り、生同士の共同学習を支援する目的で、「日常生活活動」の授業で 1 年に対して車いすの操作や介助、移乗法を指導してもらった。このことは知識の確認とコミュニケーション能力、他者に対しての支援力を高める機会になっている。1 年にとっては先輩に憧れを抱き、学習意欲の向上に繋がればと考える。

2) 学院関連の高齢者施設での実践的 OT プログラム立案と実施体験

(4 年) 担任：河口 万紀子、副担任：山崎 孝文：卒業率 (97.2%)

1) 国家試験に向けての夜間開校の有効活用

本学は、夜間部があるため夜の 10 時まで学習室など活用できることが他校にない有利な点でもある。自宅に帰ってしまうと持続的学習ができない学生は学院で学習して帰るよう指導した。

2) 国家試験合格のための細かな進捗分析と学習支援

模試作成システムを活用し、特に国家試験対策開始初期（10 月、11 月）は細分化した範囲で学習と模試を繰り返して基礎知識の十分な学習と理解、修得を図った。これらを通じて理解不十分な学生、学習法に問題がある学生のピックアップをはかった上で、さらに模試の成績が下位 1/3 に入った学生に対しては、早期介入に心掛け教員一丸となってフォローアップ体制を組んだ。また、試験日 1 ヶ月前になると合格ボーダーラインの学生に絞り、教員が集中講義を手分けして行った。欠席報告がグーグルホームでの電子報告に替わり、昨年より明らかに遅刻・欠席が増加傾向となったので、都度指導した。次年度は、学科携帯への連絡を義務づける予定である。

国家試験結果：37 名受験し、32 名が合格（合格率：86.5%）であった。全国平均（85.8%）をわずかに上回った。以上

文責 作業療法学科 学科長 山崎孝文

【理学療法学科 昼間部・夜間部】

1. 総括

昨今、理学療法学科全体での教育体制には、少子化問題が大きく影を落としている。また、最近では、学力低下とともに、社会への適応性に問題を抱える学生が多く認められるようになってきた。これまでも担任を中心とした学習指導・生活指導など行ってきたが、その内容も複雑化しており、さらなる手厚い対応が求められる状況となった。

また、新昼間部1年は、39名であり、夜間部1年は8名であったことは原因も含め大きな改善目標として課題となった。

2. 学生動向

	在籍数	休学	退学	留年	進級	備考(退学者)
昼間部1年	71	0	8/2	4	57	成績不良8名、その他
2年	74	0	1	3	70	他職種への進路変更
3年	73	0	1	5	67	成績不良5名、その他
4年	60	1	1	0	58	モチベーション低下
夜間部1年	17	0	3/4	0	10	成績2名、経済2名、精神3名による問題
2年	25	0	0	2	23	成績不良、その他
3年	22	1	1	0	20	療養のため休学 経済問題のため退学

昼間部1年次に退学となった10名には特徴があり、前期早々に退学した8名と後期で退学となった2名がおり、成績不良による進路変更が理由となっていた。しかし、元々学習経験が高校時代に十分身についておらず継続的に取り組む姿勢が欠如していた。さらにはアルバイトによる睡眠不足などが重なり、学習不良から退学となった要因と推測された。

また、他学年における退学者の要因として、経済的問題が挙げられる。最終学年においても再三の期限延長を行ってきたが最終的には強制退学となった者が認められた。計画的な学生生活が必要であるが、経済の安定した環境を事前に検討する力は、保護者に依存するしかないのが実状である。実害をこうむるのは学生自身であることを認識し、親子間での話し合いを促すことが必要とも感じた。

三つ目の要因としては、対人問題、精神(発達)問題が認められる。本学だけの問題ではなく社会的問題として発達障害への対策が急務となっている。医療関係者にも最近目立つようになってきているが周りからのサポートも含め、受け入れ態勢は整ってきている。事前情報によって補えることも多くあるため、入学時からの情報収集が重要な状況である。今後は、定期的なアナウンスをはじめ、教育的な指導や講演の機会を増やし、打開策を検討していきたい。なお、留年した学生においては、理学療法士になる夢が持ち続けられるよう、引き続き支援を行いたい。

成績不良	精神問題	経済問題
・小テスト(低) ・アルバイト時間↑ ・スマホ使用时间↑ ・学院外の友人↑ ・睡眠時間不足 ・基本的な学習経験不足 ・出席不良	・クラスでの交流問題 ・入学前より不登校あり ・薬物過剰摂取(癲癇)	・アルバイト掛け持ちによる学習時間不足 ・家庭内問題による経済崩壊

3. 教育体制

- ①科目教授内容と国家試験内容整合性の検証
- ②演習、OSCE、臨床実習、症例報告の連動
- ③アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの改定
- ④①②③を元にカリキュラム改定
- ⑤その他

今年度は、カリキュラムに連動した内容を精査し、臨床実習から国家試験に結び付けるために、科目ごとに国家試験に準じた教授内容の確認と洗い出しを行った。各科目担当者が、内容の過不足を自ら確認することで、他科目との連動性を考慮した教授内容に変容させるきっかけとなった。また、学内演習と臨床実習が連動するカリキュラム構成に変容させることで、学生の理解度、実践力を強化できると推測している。今後は、本取り組みを元に、カリキュラムツリーを再構築し、現学生の問題に対応し、より実践能力のある学生教育体制を作り上げたいと考えている。

4. 国家試験【第60回理学療法士国家試験】

今回の合格率は、昼間部で92.9%、夜間部で90.0%、リトライは100%であった。不合格者は、昼間部で4名、夜間部の2名である。全国全体での平均合格率89.6%は上回ってはいたが、現役学生の平均合格率である96.2%には達していなかった。

今年度の学生レベルは、スタート時において例年になく厳しいレベルからの挑戦となった。卒業の単位が取得できた時点で、国家試験のゴールと学習結果のギャップにあきらめた学生も出るなど、苦行の5か月（国試対策期間）となった。しかし、今回の結果からも分かるように担任・国試担当者を中心にここまで引き上げたことは称賛に値する功績と感じた。今後もこの状況は続いていくものと予測されることから、前述した教育体制の充実が解決の糸口となることを期待したい。

第 60 回理学療法士国家試験 結果

	受験者数	合格者	合格率 (%)
全国(全体)	12,691	11,373	89.6
全国(現役)	11,583	11,027	96.2
全国(リトライ)	1,108	346	31.2
九中(現役 昼)	56	52	92.9
九中(現役 夜)	20	18	90.0
九中(リトライ)	1	1	100

国試対策

◆国試担当、担任を中心に学生、鰐部ゼミの三位一体

・各学習レベルに合わせた個人面談の実施

→学習方法の弱点克服



◆朝課外、夕課外、休日課外など



◆模擬試験結果；約1か月前には可年度と同等レベルに推移

5. 次年度目標

少子化問題による質の低下は避けて通れないところである。しかし、知識・技術もさることながら、質の向上は社会一般から強く求められているため、その対策としてカリキュラムの見直しをはじめ、カリキュラムの連動性と共に社会ニーズとの連動性の強化を視野に入れ、以下に示す①～③の充実を図ることを次年度の目標としたい。

① カリキュラムツリーの再構築

② 入学者確保

③ 国家試験全員合格

文責 理学療法学科 学科長 田島徹朗

第 114 回 看護師国家試験について

九州中央リハビリテーション学院 看護学科

1. 試験の概要

問題種別	必修問題	一般問題	状況設定問題
問題内容	看護師としてとくに 基本的 かつ重要な知識及び技術について出題される。基本的な知識を問う。	解剖生理から疾患、看護まで幅広く出題される。4 肢択 1 問題または、5 肢択 1 または択 2 問題。 基礎から応用まであり、各領域満遍なく出題。	在宅にシフトした現場レベルの問題が多く 応用力や判断力 が求められる。知識を医療現場で活用できること、臨床推論の力が試される。
出題数	50 問 (午前・午後 問題 1～25)	130 問 (午前・午後 問題 26～90)	60 問 (午前・午後 問題 91～120)
配点	1 問 1 点	1 問 1 点	1 問 2 点
合計点	50 点	130 点	120 点
合格基準	絶対評価 80% (40/50 問)	例年 90%前後の相対評価	

2. 第 114 回 看護師国家試験について

1) 受験者数と合格率

令和 6 年度	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
第111回保健師	7,716 人	7,658 人	7,196 人	94.0%
(うち新卒者)	7,339 人	7,308 人	7,045 人	96.4%)
第108回助産師	2,065 人	2,050 人	2,027 人	98.9%
(うち新卒者)	2,037 人	2,024 人	2,009 人	99.3%)
第114回看護師	63,819 人	63,131 人	56,906 人	90.1%
(うち新卒者)	56,415 人	56,035 人	53,718 人	95.9%)

2) 本校における今年度の実績

	新卒者	既卒者
受験者数 (人)	69 人	2 人
合格者数 (人)	67 人	1 人
合格率 (%)	97.1%	50%

3) 第 114 回看護師国家試験の合格基準

必修問題及び一般問題を 1 問 1 点、状況設定問題を 1 問 2 点とし
次の①～②の全てを満たす者を合格とする。

①必修 40 点/50 点

②一般問題+状況設定問題 148/250 点

厚生労働省ホームページ※ 1

4) 受験者数と合格基準の推移

解答予測の結果・分析から、第 114 回看護師国家試験の平均得点率は必修 92.3%、平均点が 46.2 点、一般問題+状況設定問題の平均得点率は 71.7%で平均点が 179.2 点あった。(※ 1)

必修問題の平均点は過去 2 番目に高く、解答を示すことができない不適説問題もなかった。必修問題と比較して、難易度が上がる一般問題から必修へ移行した問題は 25/50 問程度の出題に留まり、過去問題の正答率 60%に類似する問題がほとんどであった。このことから、過去問題を中心に学習を行えば解答できる比較的やさしい問題がほとんどであった。

一般問題・状況設定問題の合格基準は、過去 10 年間の得点率の最高が 66.8%最低では 59.2%となっている。そのため 70%以上の得点率で確実な合格となる。第 114 回の合格基準は平均点 155 点で、最も低く不適切問題が多かった第 106 回の 142 点を除き、過去 10 年間で 151 点が最低、最高点 167 点であった。第 114 回の合格基準は過去 10 年間で最も低い、予測解答結果成績や問題そのものを分析した結果、難易度に変化はなかったとある。このことから、全国的な学力の低下が示唆される。

受験者数(全体)は第 104 回(平成 27 年)から第 113 回(令和 6 年)までの 10 年間の平均は 63,780 人で、今回の第 114 回は 63,819 人で昨年と比較しても 170 人増加でほぼ平行状態である。合格率の推移(全体)の 10 年間の平均は 89.7%であり、第 111 回の 91.3%が最も高く、昨年の 113 回が 87.8%と過去最低となっている。第 114 回は 90.1%であり、10 年間の平均 57,261 人と比較すると 355 人減少であるが、合格基準が 158 点で合格者数 55,557 人であった昨年は 87.8%と合格率が低く話題となったがそれらと比べると 1349 人増加していた。

3. 試験問題について

出題形式および 5 択問題数は同じであった。状況設定問題では 2 連問・単問はなく全て 3 連問であった。頻出疾患として肝細胞癌、乳がんなど、過去にあまりない出題のない生活不活発病、サイフォニング現象、必修問題は心静止、尖足といった用語が使用され戸惑った学生もいたと思われる。

状況設定問題では、くも膜下出血、統合失調症など頻出問題が出題され、二分脊椎や物質使用障害(依存症)などあまり見られない疾患が出題されていた。診察を受ける優先度を問う問題では、臨床に即した知識が求められていた。

科目別正答率では、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復促進が 40%台と全国的に学力低下が示唆される。60%台では、健康支援と社会保障制度、老年看護学、精神看護学、看護の統合と実践、小児看護学であった。当学院でも解剖・病態生理学、小児看護学は、受験直前に多少の

向上はあったものの伸び悩みの状況であった。

4. 今後の課題

2022 年以降の新カリキュラムは、コミュニケーション能力のさらなる強化、臨床判断能力や倫理的判断・行動に必要な基礎能力を養うためのシミュレーションを活用した演習の強化を学ぶ内容となっている。今回の看護師国家試験では、カリキュラム改定後はじめての国家試験であることや、コロナ感染症が 5 類に移行してから臨地実習で学習できる機会が増えていったことで、第 114 回看護師国家試験に対するさまざまな憶測があった。結果的に、新しい用語を使用した問題は見られたものの、数問を除いて難易度および出題形式の大きな変更はなかった。

3 年次に行う各社 3、4 回実施される模擬試験結果の推移から「模試の点数がなかなか伸びない」、解剖生理学、病態生理学の正答率が 40%程度であることから、「基本から学習させたいが時間的余裕がない」、「暗記に頼らず根拠を理解し答えられるようになってほしい」といった思いも空しく、テキストを活用した学習および集中力のない学生が増加傾向にある。予備校のガイダンスや教員が設定した学習計画や短期目標では、「モチベーションが下がる、続かない」といった学生の意見も一部の学生にあった。実際に成績は伸び悩み、学生のペースに合わせざるを得ない。「合格はしたいが勉強はしたくない」ごく一部の学生ではあるが、「1 か月前しか勉強しない」と発言する学生もおり、学習を苦手とする学生にとっては、非現実的な目標であるとともに、「何とかなる」といった SNS に依存した根拠のない情報のみに頼り、危機感を持たせるのが難しい学生が職種を問わず全国的に増加しているとのことであった。

看護師国家試験では、幅広い知識と読解力を必要とするが、専門分野、専門基礎分野、基礎分野のさらに基盤となる知識「読む・書く・計算する力」が不足している学生が増加傾向にある。日常的にそれらを意識して講義を行ってきたが、3 年次の後期になっても学力が伸びない学生の多さの現状に益々の基盤とする知識の習得に力を入れる必要がある。臨地実習でも、カルテが読めない学生からの質問や、解剖生理学を理解しないまま看護を行っている学生の姿が見受けられる。これらの学生の傾向を踏まえて、出版社では読み書きや言葉の意味の理解などのワークブックの出版を検討されている。

学習習慣に関しては、学生が集中力を継続できる講義および実習指導を試みる必要がある。さらに近年の学生の傾向から各業者の第 115 回看護師国家試験対策として、主なものに解説書の工夫を挙げていた。静止画の限界から文字数を最小にすること、絵や図を増やすこと、学習方法として動画がスタンダードになりつつあることを踏まえ、解説動画を増やすことや、大手出版業者のなかには有名ユーチューバーと連携をとり、学習習慣の確立ができない学生のためにモチベーションを下げないための工夫をする傾向にある。

本校の教室でも、最後までテキストをほぼ活用できず、携帯を片手に要約された試験対策本で学習する光景が現実にあった。要学習支援者に自宅での学習方法を確認すると、ほぼ全員が動画で学習しているとのことであった。

科目別正答率より、成績が伸びない学生の傾向から、解説を丸暗記している、解剖・病態生理学が苦手であるため、講義から臨地実習前後では解剖・病態生理から看護につなげるための意識付け・専門基礎科目の強化を図る必要がある。解説本では、正解にも根拠、不正解にも根拠を挙げ学習を促進する工夫がされているが、範囲の広い国家試験では十分とは言えない。日常的に周辺知識まで

範囲を広げて学習できるよう、自己学習力を養う必要がある。小児看護学の正答率が低い理由の一つに範囲の広さや臨地実習で成功体験を掴みにくいといった点がある。ただし、先天性心疾患など全く新しい知識を必要とていない。小児看護学に寄らず既習の解剖生理学の知識と関連付けながら専門分野を学習し、臨地実習終了時には修得できることが望ましい。

最後に、看護基礎教育および第 115 回看護師国家試験の傾向 1 から 4 をもとに具体策を提示する。

1. 基礎知識の重視：人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進などの専門分野と基礎分野
2. 臨床診断能力：適切な看護の提供のため、患者の状態を評価する能力
3. 倫理と法令：患者の権利、看護師としての職業倫理、医療に関する法律
4. 最新の医療知識（医療技術、看護の動向）：感染症対策、在宅医療、高齢者看護

を土台に学習方法として、解剖生理学・病態生理学でわからないことをそのままにすることのないよう学習習慣の確立と、問われていることの要点を掴む、学習の転移（積み重ねた知識を他の場面でも関連付けられる）ができるよう発問をすること、集中力を養うためのステップとして個別な学生な理解と学習場面・教材に応じた展開（時間の短長・簡潔明瞭）を行う。

引用・参考文献

※1 厚生労働省ホームページ 第 114 回看護師国家試験

※2 東京アカデミー、メディックメディア、ディカコンクールの講評、得点分布・偏差値資料

IV-3-1 介護福祉学科教育課程

					1 学年次		2 学年次	
領域	教育内容	科目名	単位	時間	前期	後期	前期	後期
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の理解	2	30	30			
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	4	60	30	30		
	社会の理解	社会の制度と理解Ⅰ	2	30			30	
		社会の制度と理解Ⅱ	2	30				30
	人間と社会に関する選択科目	スマート介護	2	30			30	
		エンターテインメント	2	30	30			
		介護福祉特論Ⅰ	2	30				30
		エステティックケア	2	30		30		
		介護福祉特論Ⅱ	2	30				30
小計		20	300	90	60	60	90	
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	1	30	30			
		介護の基本Ⅱ	1	30	30			
		介護の基本Ⅲ	1	30		30		
		介護の基本Ⅳ	1	30		30		
		介護の基本Ⅴ	1	30			30	
		介護の基本Ⅵ	1	30				30
	コミュニケーション技術	手話	1	15	15			
		点字	1	15		15		
		コミュニケーション技術	1	30			30	
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	1	30	30			
		生活支援技術Ⅱ	1	30	30			
		生活支援技術Ⅲ	1	30		30		
		生活支援技術Ⅳ	1	30	30			
		生活支援技術Ⅴ	1	30		30		
		生活支援技術Ⅵ	1	30			30	
		生活支援技術Ⅶ	1	30			30	
		生活支援技術Ⅷ	1	30		30		
		生活支援技術Ⅸ	1	30				30
		生活支援技術Ⅹ	1	30			30	
	介護過程	介護過程Ⅰ	1	30	30			
		介護過程Ⅱ	2	60		60		
		介護過程Ⅲ	1	30			30	
		介護過程Ⅳ	1	30				30
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	1	30	30			
		介護総合演習Ⅱ	1	30		30		
		介護総合演習Ⅲ	1	30			30	
		介護総合演習Ⅳ	1	30				30
	介護実習	介護実習Ⅰ	2	80	80			
		介護実習Ⅱ	5	200		200		
		介護実習Ⅲ	5	200			200	
	小計		40	1290	305	455	410	120
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解A	1	30		30		
		発達と老化の理解B	1	30		30		
	認知症の理解	認知症の理解A	2	45	45			
		認知症の理解B	1	15				15
	障害の理解	障害の理解A	1	30			30	
		障害の理解B	1	30				30
	こころとからだのしくみ	介護とリハビリテーション	2	45	45			
		こころとからだのしくみA	1	30		30		
こころとからだのしくみB	2	45				45		
小計		12	300	90	90	30	90	
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアの基礎Ⅰ	2	45			45	
		医療的ケアの基礎Ⅱ	1	30			30	
		医療的ケアの基礎Ⅲ	1	15				15
		医療的ケアの実習(見学)	1	15			15	
	小計		5	105	0	0	90	15
総計			77	1995	485	605	590	315

IV-3-2

学科の特徴的な取組と実績

【介護福祉学科】

介護福祉学科では、入学時より自主性・社会性を養いながら、授業や実習を通して介護福祉士としての必要な知識・技術・態度を育むカリキュラムとなっている。美容や娯楽、写真や音楽などの基礎を習得できる複合的カリキュラムも導入することで、将来の選択肢も広がっている。学生は将来をイメージすることで、自らの目標を明確にし、講義内容の理解を深めていくことができる。

教員は福祉・保健・医療を統合した総合ケアの視点を持ち、豊富な現場経験を活かした授業を展開しており、情熱と教養のあるきめ細かな教育・指導を行っている。

学習環境について、設備面も大変充実している。介護実習室ではタイプの違うベッドが計 8 台あり、いろいろな状況に合わせた生活支援技術の習得に役立っている。家政科実習室では調理台を 8 台、電子レンジも 8 台設置しスムーズな調理実習に適した環境となっている。

2 年間を通しての介護実習では、学内の講義や演習で学んだ「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」などの専門的な技術と知識を、実際の介護現場において実践し、自己の課題に向き合い、新たな学びへと成長していく機会としている。そして、利用者のみなさまや現場で働く介護福祉士としての必要な知識・生活支援技術・徳育を育むことを期待している。

介護実習は、状況は緩和されたとはいえ昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルスの影響はあり、実習開始前 2 週間よりアルバイトの中止、体調管理・行動履歴の記録、PCR 検査を実施し、実習に臨んだ。そのような事もあり学生は依然として残る新型コロナ感染リスクがある状況においても実習を受け入れてくださった実習施設の皆様へ、感謝の気持ちで実践的な学びを深めることができた。また介護現場での感染症への必要な知識や、具体的な感染対策を行い、利用者の命を守る姿勢や職業倫理を学ぶこともできた。

介護福祉学科では学生全員が、ボランティアサークル「クローバー」に所属し、障がい者・高齢者施設で行われる行事などに積極的に参加している。しかし新型コロナウイルス感染症の影響も残るため増えてきたとはいえ、ボランティアの依頼は少なく、可能な範囲で対応できるようにしている。

2 年次の就職活動については、履歴書の書き方の指導や面接試験対策指導、外部より講師を招き接遇、マナーを指導した。小論文が試験項目にある者に対しては個別指導を行った。結果、就職率は 94%（早期の就職を望まない学生 1 名含む）、学生全員が希望する介護施設へ就職することができた。

第 37 回介護福祉士国家試験は予定通り、1 月 26 日グランメッセ熊本で実施され、本学院からは 17 名（日本人 17 名）受験し 16 名合格した。（合格率 94%）

全国の合格率は 78.3%、全国介護福祉士養成施設ルート合格率は 82.8%と本学院の合格率は 94%と全国及び養成施設ルートの

合格率を上回った。

国家試験に対しては 9 月より国家試験対策の時間を設けグループによる対策を行い学習時間を確保した。加えて月 1 回は模擬試験を実施しクラス全体の実力の底上げ、状況把握を行った。模試を重ねるにつれ成績の向上につながった。また苦手分野の克服のために教員で分担し補講を行い合格率の向上に努めた。

IV-3-3 介護福祉学科 第13期生 卒業発表会

日時 令和7年3月5日(水) 9時20分～12時20分

場所 九州中央リハビリテーション学院 1号館5階 講堂

令和6年度 13期生 卒業発表会

発表順	発表者	テーマ
1	吉武なずな	帯状疱疹後神経痛について～痛みに対して介護福祉士ができること～
2	小原田大吾	高齢者の抱える皮膚症状 ～Cさんの気持ちに寄り添うことで、心地よく過ごしてもらうには～
3	亀丸雅斗	中途障害による難聴について ～どのコミュニケーションが一番伝わりやすいか～
4	田中優希	前立腺肥大の方への介護～意欲を引き出すためのアプローチ～
5	増原伸	食事への影響～高次脳機能障害、認知症、糖尿病への支援について～
6	尾野絢香	その人らしい生活～100歳の食事摂取量や移乗などを維持するために～
7	小谷真凛	高次脳機能障害を持った利用者様の歩行～交通事故による外傷で、高次脳機能障害を持たれた66歳女性への歩行障害の支援～
8	井上咲愛	むせなく食事するために～94歳アルツハイマー型認知症の食事の方法～
9	池島由香里	口腔内の清潔を保つには ～アルツハイマー型認知症を持つ利用者の口腔ケアの支援～
10	小澤沙也	84歳の左片麻痺がある方の食事介助～水分摂取を促す方法について～
11	岡村萌	食事支援について ～89歳女性左半側空間無視のある人の食事と環境について
12	吉川遥華	アルツハイマー型認知症の睡眠～97歳女性夜間の睡眠について～
13	福岡美紀	承認欲求とは何か ～マズローの5段階欲求説を介護の現場で活用し支援する方法～
14	吉田凧沙	誤嚥を防ぐ食事～安全に介助するために私たちが意識すべきこととは～
15	澤辺大雅	大腿骨頸部骨折の介護～歩行への思いを実現する介護～
16	永田結人	身体に痛みがある方の介護 ～100歳男性、胸骨圧迫骨折の方の負担が少なくなる介護方法～

IV-4 教育活動 【国際介護学科】

1.学科再開

2020 年、新型コロナウイルス感染者増加により入国できる留学生数が大幅に減り、本学院でも留学生の確保が困難になってきたため、2022 年度から一旦国際介護学科を閉じていた。3 年後ようやくコロナが落ち着きを見せ始め、入国を足止めされていた留学生が徐々に動けるようになってきたため、2024 年度より国際介護学科を再開することとなった。

コロナの収束で、足止めをされていた留学生が次々と入国し、日本語学校における学生数も一気に増加した。本学院の入学試験においては 20 名の定員に対し、31 名が受験、うち 22 名を合格としたが、合格者の日本語能力は JLPT・N2 取得者から無資格の者まで様々であった。出身国の内訳については以下の通りである。

ネパール：17 名

スリランカ：2 名

バングラデシュ：1 名

フィリピン：1 名

中国：1 名

2.カリキュラム

今回、再開するにあたってカリキュラムの見直しを図った。以前の国際介護学科は介護分野の基礎的な学習や実習を中心としていたが、介護福祉学科進学後の日本語レベルが十分ではなく、授業についていけない学生が出てくるなどの問題もあったため、国際介護学科の 1 年間はとにかく日本語のレベルを上げることに重点を置いたカリキュラムへと編成し直した(日本語 3:介護 2)。

3.目標

- ・日本語のレベルアップを図り、介護福祉学科合格を目指す
- ・JLPT・N2 合格
- ・アルバイトを通して介護現場を経験する

4.教育

カリキュラムの見直しに伴い、日本語の科目を細分化した。『語彙』『読解』『聴解』『文法』など、日本語能力の試験内容に対応した授業、『作文』『日本事情』『方言』『PC 基本操作』など、卒業後も熊本県内で働くために必要な知識や技術を学ぶ授業を組み込んだ。一方、介護分野では『生活支援技術』『こころとからだのしくみ』『コミュニケーション技術』など、基礎的な介護の知識・技術を学ぶ。

また、留学生が許可されている週 28 時間(長期休暇においては週 40 時間)の資格外活動については全員が介護施設でアルバイトを行った。利用者や職員との日常的な会話を通し、入学時ほとんど喋れなかった学生が卒業時には比較的スムーズな会話ができるまでになった。実際に介護現場での仕事を体験するため、介護福祉学科進学後の学習に繋がるいい効果が得られている。

5.実績

入学時 22 名在籍→全員卒業

介護福祉学科合格：20 名

他校へ進学：2 名

JLPT・N2 合格：1 名

JLPT・N3 合格：2 名

JPT・640 点(N2 相当)：1 名

J.TEST・C 級(N2 相当) 合格：1 名

J.TEST・D 級(N3 相当) 合格：2 名

J.TEST・E 級(N4 相当) 合格：3 名

学科の特徴的な取組と実績

【デジタルソリューション学科】

1 学科目標と企業連携

デジタルソリューション学科は、令和6年4月に13名の新生を迎えスタートした新しい学科です。

デジタルソリューション学科では、プログラマーやエンジニアといったIT人材の養成だけではなく、ビジネスの現場でデジタルの知識、知見、技術を使いこなし、地域のさまざまな産業や企業の発展に寄与できるデジタルビジネスパーソンを養成することを目標としています。

また、企業経営者や企業で働く実務家教員から最前線の情報技術を授業で学ぶだけでなく、課題解決（ソリューション）、価値創造（バリュークリエーション）、起業家志向（アントレプレナーシップ）についても学び、熊本を支える地域人材として地場企業への就職を目指します。

1年次、2年次の「地域経済Ⅰ・Ⅱ」の授業では、熊本県内の優良企業が全面バックアップ。熊本の経済、熊本のIT業界の今を実学で学びます。また、将来の就職を視野に入れ、協力企業でのインターンシップを1年次に実施しています。

2 学科の教育内容の充実のための取組

本学科では、実践に即した教育を通じて、学生たちが即座に活躍できる基本的な技術能力と適応力を身につけることのための教育内容を構築するため、IT企業の方々の意見や指導が不可欠となっています。そこで、県内地場IT企業10社に参加いただき、意見交換会を5月24日（金）に実施しました。

ここでは、情報セキュリティやモラルなどの教育内容にとどまらず、人間性の向上のための取組の重要性が指摘されました。

このことを受け、オンラインの情報セキュリティ教育を導入。また、学生に目標管理シートによる自己評価、教員評価を導入し、学生の取組状況の見える化を図りました。

10月29日（火）には、IT企業3社にお集まりいただき、カリキュラムのあり方検討会を実施しました。

ここでは、AWSなどのクラウド技術者の不足やあらためて人間性の向上が指摘されました。そのため実習内容にAWSを使ったクラウド実習を導入。ジェネリックスキルを評価するためのルーブリック評価を開発し、年3回、学生の自己評価を行い、ジェネリックスキルがどれだけ向上していくかがわかる仕組みを構築しました。

3 資格取得

デジタルソリューション学科では、経済産業省主管の「ITパスポート」「情報セキュリティマネジメント」「基本情報技術者」の3つの国家試験に合格することを目標としています。そのために基本情報技術者試験については、修了試験実施の認定を受け、A科目を校内の修了試験で合格した者がB科目だけを受験する方式を採用しています。令和6年度の実績は以下のとおり。

なお、該当者は、1年生の12名。

ITパスポート 2名合格

情報セキュリティマネジメント 5名合格

基本情報技術者 A科目 7名合格

B科目 2名合格

（文責 柿下耕一）

V 研究・研修実績	
名前	タイトル、出版社、年など
V-1 執筆・論文	
河野文夫	医療相談室 血液内科 "非貧血性鉄欠乏症について" 総合文化誌 KUMAMOTO 47 204ページ 2024.6
河野文夫	追悼 蟻田功先生 69-80ページ 総合文化誌KUMAMOTO 48 2024.9
河野文夫	蟻田功先生追悼『天然痘根絶の軌跡から学ぶ』 追悼文14 37ー38頁 発行日2024年3月25日 発行者 蟻田功先生を偲ぶ会
本田 直（分担執筆）	マネジメントの極意をつかむ！ PT・OT・STのためのリハビリテーション管理学 診断と治療社 pp114-121,pp125-127 2024.10.18
福岡進	新人理学療法士の失敗の社会的考察 ～中堅理学療法士へのインタビュー調査から～，熊本大学倫理学研究室紀要：先端倫理研究，Vol.19， pp.25-44
大塚開成	1）小手川耕平、大塚開成、河口万紀子「臨床実習における作業療法学生の高次脳機能障害に対する理解・実践能力の自己評価」作業療法、第43巻6号：2024.12.15. 2）柏尾未来、中山彰子、島添雅宏、大塚開成「脳卒中患者の疼痛改善により日常生活動作介助量が軽減した一例－身体イメージに着目した介入－作業療法研究くまもと、第9巻1号：2025.3.31.
平田匠	平田匠、堀本ゆかり、小野田公「理学療法実技教育への動画教材導入の有効性について」日本リハビリテーション教育学会誌、第8巻 特別号1号：2025年
V-2 学会発表	
大塚 開成	吉本健人、冬田修平、平田尚広、熊ヶ迫愛、江浦葵、大塚開成「重度片麻痺患者に対してフィードバックを工夫し動機付け獲得により歩行機能が向上した一例」九州理学療法士学術大会2024in佐賀.11.9～11.10
井手義智	井手義智、西村絢子、本田洋一、興相ひで「ブラダー・ウィリ症候群幼児への理学療法経験-短期介入からの支援の再検討-」第11回日本小児理学療法学会学術大会in福島2024年11月2～3日
原田 恭兵	(1) 原田恭兵、北川拓弥、尾上あゆみ、大森久光ら「末診断の気流閉塞と労働生産性の関連性について」第64回 日本呼吸器学会学術講演会 2024.4.6 (2) Kyohei Harada, Ayumi Onoue, Takuya Kitagawa, Hisamitsu Omori et al 「Work Productivity Reduction and Use of Sick Leave Among Japanese Workers Diagnosed With Asthma: The Japanese Red Cross Kumamoto Study」ATS 2025 International Conference 2024.5.19
平田匠	平田匠、堀本ゆかり、小野田公「理学療法実技教育への動画教材導入の有効性について」第23回日本リハビリテーション教育学会 2025.1.11
赤石めぐみ	赤石めぐみ、後藤啓士郎、野尻明子、村田美希「刑務所における作業療法士が行う健康運動指導への意識について－高齢受刑者へのアンケート調査より－」第58回日本作業療法学会in北海道 2024.11.10
V-3 講演など	
V-4 学会座長など	
大塚 開成	第20回熊本作業療法学会、ポスター発表 座長、2025.1.26、済生会熊本病院 外来がん治療センター．
V-5 その他（講義・査読など）	
福岡 進	トレーナー）熊本工業高校野球部 2018.3.15～ トレーナー）熊本工業高校野球部 2024.7.31～2024.8.13 甲子園帯同 研修会スタッフ）熊本県理学療法士協会 倫理委員会 研修会 2024.10.20 講義）熊本県立第二高校SSH事業 STEAMプログラム 美術解剖学講座 2025.2.7 講義）東部中学校 令和6年度子どもフォーラム 『健康な生活習慣を確立しよう～運動の必要性について～』 2025.2.27 研修会ファシリテーター）日本理学療法士協会 臨床実習ブラッシュアップセミナー 2025.3.9
飯星 雅朗	査読）九州理学療法士学術大会2024 in 佐賀 査読）第26回熊本県理学療法士学会 審査）熊本市介護給付等の支給に関する審査会
田島 徹朗	査読）九州理学療法士学術大会2024 in 佐賀 査読）第26回熊本県理学療法士学会 マネージャー）熊本県臨床実習指導者講習会（都道府県講習会）2024.9.7-8
山崎 孝文	査読）九州作業療法学会2025in宮崎 講義）①福祉用具専門相談員指定講習会 熊本職業能力開発促進センター 2024.9.12～13 ②福祉用具専門相談員指定講習会 熊本職業能力開発促進センター 2025.3.13～14
大塚 開成	講義）①熊本認知神経リハビリテーション研究会「認知神経リハビリテーションとは」2024.4.24 ②くまもと成城病院 看護部勉強会「新人教育について」2024.6.6 ③現職者共通研修「作業療法の可能性」(web) 2024.8.2 ④第1回厚生労働省指定 臨床実習指導者講習会「臨床実習における管理・運営」(web) 2024.7.20 ⑤くまもと成城病院リハビリテーション部・看護部勉強会「FIMについて」2024.9.19 ⑥第2回厚生労働省指定 臨床実習指導者講習会「臨床実習における管理・運営」(web) 2024.12.14 ⑦くまもと成城病院 リハビリテーション部勉強会 「多職種連携について」2025.3.29 査読）九州作業療法学会2025in宮崎 第20回熊本作業療法学会
亀尾香珠代	査読）九州作業療法学会2025in宮崎 第20回熊本作業療法学会
赤石めぐみ	支援事業）熊本刑務所（熊本県作業療法士会派遣事業）2022.10～ 臨床実習指導講習会 ファシリテーター 2024.7.20～21
井手 義智	訪問支援）熊本県理学療法士協会 児童発達支援事業 2024年5月・7月・9月、11月、2025年1月、3月 研修会スタッフ）熊本県理学療法士協会専門領域部小児班主催研修会(応用編) 2024年6月9日 熊本県理学療法士協会専門領域部小児班主催研修会(基礎編) 2025年2月8～9日 熊本県理学療法士協会小児班主催 第5回スキルアップ研修会・参加型情報共有会議 2024年11月17日 講義）熊本県理学療法士協会・西部公民館共催 「家でもできる健康体操」2024年9月27日
原田 恭兵	講義）令和6年 熊本県高等学校保健会第1回生徒保健委員連絡協議会研修 「運動器外傷・障害の特徴とその予防体操」2024.7.5
河口万紀子	査読）九州作業療法学会2025in宮崎 第20回熊本県作業療法学会
	講義）熊本県作業療法県士会精神分野研修会「精神科作業療法の地域支援に関する講義内容について」(Web)2024.9.19

岸 本 稔	運営・講師) Redcord Basicコース開催 2024.8.10-11 当学院にて 講師) 熊本県臨床実習指導者講習会 2024.9.7-8 運営・講師) Redcord Basicコース開催 2025.2.1-2 当学院にて 講師・運営) 日本理学療法士協会 臨床実習指導者講習会ブラッシュアップ研修臨床実習指導者講習会
野島謙一郎	運営) 令和6年度 熊本県福祉人材センター福祉就職セミナー (介護福祉士相談ブース) 2024.6.22 講師) 令和6年度 外国人介護人材のための資格取得支援講座 講師 講師) 九州看護福祉大学社会福祉学部 「介護の基本IV」、「介護の基本VI」非常勤講師 講師) 熊本県介護福祉士会ファーストステップ研修講師 2024.6.19 講師) 熊本県介護福祉士実習指導者研修 講師 2024.08.18 講師) 日本介護福祉士会 介護職種の技能実習指導員養成研修 講師 2024.10.27 講師) 熊本県介護福祉士会技能実習生等集合研修 講師 講師) JICA 令和6年度外国人介護人材能力向上・受入支援プログラム 講師 講義) 令和6年度熊本県介護老人福祉施設協議会総会 「今後の介護人材確保について」 講義) 第15回熊本県医療人育成総合会議 「外国人介護福祉士の養成とその重要性」 2024.11.4 講義) 北九州ホスピスケアの会 「グリーンケアについて」 2025.12.7
瀧下明日香	査読) 学術大会：九州理学療法士学術大会2024 in佐賀 研修会アシスタント・運営) 『臨床動作分析で必要な動作分析と治療』 2024.9.15 研修会講師・アシスタント・運営) 熊本ボバース定期勉強会 2024.10月~2月 (1回/月) 研修会スタッフ・ファシリテーター) 熊本県理学療法士協会専門領域部 『熊本県内の中枢神経疾患に関する課題の検討と情報共有』 2024.8.24 研修会アシスタント) i.solution研究会 歩行に関する実技 ①2024.06.02 ②2024.07.07 ③2024.10.06 ④2024.12.15
本田 直	講義) 熊本保健科学大学 装具適応論 2024.6.7 査読) 第20回熊本作業療法学会 査読) 九州作業療法学会2025 in 宮崎
柿下 耕一	講義) 熊本大学教育学部 前期非常勤講師「工業科教育法Ⅰ」 講義) 熊本大学教育学部 後期非常勤講師「工業科教育法Ⅱ」 講義) 熊本市立必由館高等学校 1年 総合的な探究の時間「データサイエンス入門」
林田 拓哉	研修会スタッフ) 熊本県理学療法士協会第101回学術研修会 2024年6月9日 熊本県理学療法士協会第103回学術研修会 2024年12月8日 熊本県理学療法士協会第103回学術研修会 2025年2月8~9日
泉 夏希	研修会スタッフ) 臨床動作分析で必要な動作分析と治療 2024/9/15 熊本ボバース定期勉強会 2024/10~2 (1回/月) i.solution研究会 歩行コース (全6回) 2024/6/2 7/7 8/4 10/6 11/3 12/15
V-6 研修会参加	
山崎 孝文	①令和6年度 作業療法士学校養成施設連絡会研修「臨床で許容される臨床技能とその条件」(日本作業療法士協会主催) 2025.7.23 オンライン参加 ②第20回 熊本作業療法学会 (一般社団法人 熊本県作業療法士会主催) 2025.1.26 済生会熊本病院 外来がん治療センター ③法人設立30周年 記念講演会 (一般社団法人 熊本県作業療法士会主催) 2025.2.8 熊本ホテルキャッスル ④令和6年度 老人保健健康増進事業「福祉用具専門相談員講習カリキュラムの見直し」(一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会主催) 2025.2.28 オンライン参加
瀧下 明日香	①基礎から学ぶバイオメカニクス 大阪府理学療法士会 (web開催) 2024.05.21 ②第101回学術研修会 脳卒中の歩行リハビリテーション 熊本県理学療法士協会 (web開催) 2024.06.09 ③ 第13回日本ボバース研究会学術大会 2024.07.27-28 ④科学的根拠から考える神経の可塑性 大阪府理学療法士会 (web開催) 2024.07.30 ⑤臨床における連合反応をどう考える 大阪府理学療法士会 (web開催) 2024.08.30 ⑥臨床動作分析で必要な動作分析と治療 熊本ボバース勉強会 2024.9.15 ⑦第22回日本神経理学療法学会学術大会 日本神経理学療法学会 2024.09.28- 29 ⑧歩行のオンソリティから最新の歩行分析を基本から学ぼう 脳梗塞リハビリテーション福岡 (web開催) 2024.10.05 ⑨脳卒中後歩行再建に向けた理学療法 宮崎県士会主催研修会 (web開催) 2024.11.16 ⑩脳卒中後遺症者に対する評価と治療 九州ボバース研修会 2024.11.23-24 ⑪第26回熊本県理学療法士学会 熊本県理学療法士協会 2024.12.01 ⑫股関節疾患の理学療法～評価・運動療法をメインに考える～ 北海道理学療法士会 (web開催) 2024.12.14 ⑬学校教育の基礎知識と専門職が関わる上でのポイント 北海道理学療法士会 (web開催) 2025.02.01 ⑭熊本県理学療法士協会専門領域部小児班主催研修会(基礎編) 2025.02.08-09日 ⑮歩行① i.solution研究会 2024.06.02 ⑯歩行② i.solution研究会 2024.07.07 ⑰歩行③ i.solution研究会 2024.10.06 ⑱歩行④ i.solution研究会 2024.12.15 ⑲臨床現場で必要な評価と治療 熊本ボバース定期勉強会 2024.10.18 ⑳姿勢制御の評価と治療 熊本ボバース定期勉強会 2024.11.15 ㉑立ち上がりに必要な姿勢制御の評価と治療 熊本ボバース定期勉強会 2024.12.20 ㉒足部の評価と治療 熊本ボバース定期勉強会 2025.01.17 ㉓安定した二足直立立位 熊本ボバース定期勉強会 2025.02.21
田島 徹朗	①日本理学療法士協会組織運営協議会 2024.4.7 ②2024年度評価員研修会 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 2024.5.11 ③日本理学療法士協会役員研修会 認定スクールトレーナー制度の意義と理学療法士への期待 2024.6.1 ④長野県理学療法士学術大会 2024.6.15-16 ⑤現場から学ぶ；中堅理学療法士の教育とマネジメント。キャリアと挑戦 2024.7.28 ⑥第37回教育研究大会・教員研修会 2024.8.30-31 ⑦公益社団法人熊本県理学療法士協会 倫理研修会 2024.10.20 ⑧全国リハビリテーション学校協会 九州・沖縄ブロック 第1回研修会 2024.11.2 ⑨第26回熊本県理学療法士学会 2024.12.1 ⑩全国リハビリテーション学校協会 九州・沖縄ブロック 第2回研修会 2025.1.25
飯星 雅朗	①熊本県理学療法士協会主催 倫理研修会 2024.10.8 ②第7回 日本産業理学療法研究会 学術大会 2024.10.27 ③九州理学療法士学術大会in佐賀 2024.11.9-10 ④第26回熊本県理学療法士学会 2024.12.1 ⑤全国リハビリテーション学校協会 九州・沖縄ブロック 第2回研修会 2025.1.25 ⑥熊本県理学療法士協会臨時総会 2025.3.16
井手 義智	①熊本県理学療法士協会専門領域部小児班主催研修会(応用編) 2024年6月9日 ②長崎県発達支援推進セミナー(Web) 2024年8月4日 ③第11回日本小児理学療法学会学術大会in福島 2024年11月2~3日 ④2024年度小児理学療法学会研究支援セミナー2(Web) 「痙縮治療」2025年2月15日 ⑤日本理学療法士協会 症例報告の重要性とまとめ方のポイント(オンデマンド)

渡久山 竜彦	①日本理学療法士協会 4年制大学化推進部会 シンポジウム 2025.1.26（オンライン研修会） ②こどものSOSのカタチ 2025.2.22（北部公民館）	
平田 匠	①日本臨床整形外科学会 in 熊本 2024.7.14～7.15 ②熊本県医療人育成総合会議 2024.11.4 ③第22回日本リハビリテーション教育学会学術大会（Web） 2024.12.21 ④第23回日本リハビリテーション教育学会学術大会（Web） 2025.1.11	
原田 恭兵	①第64回日本呼吸器学会学術講演会 inバシフィコ横浜 2024.4.5-4.6 ②2024 American Thoracic Society in San Diego 2024.5.18-5.22 ③中級パラスポーツ指導員養成講習会 in大阪 2024.11.9-11.10, 2024.11.16-11.17 ④バックテックeセミナー 産業保健・健康経営を科学する（多職種連携に活かす）2024.11.26（オンデマンド） ⑤バックテックeセミナー 産業保健・健康経営を科学する（産業保健領域に欠かせないエルゴノミクスの基礎）2025.1.15（オンデマンド） ⑥バックテックeセミナー 産業保健・健康経営を科学する（産業理学療法の可能性）2025.1.30（オンデマンド）	
岩下 祥平	①第53回長野県理学療法学術大会（Web）2024.6.15-16 ②キネシオテーピング 基礎講座 2024.8.23 ③第51回 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 養成施設教員講習会 2024.8.19-9.11 ④第40回 東海北陸理学療法学術大会 2024.9.7 ⑤日本運動器学会 臨床研究セミナー1回目 2025.1.15 ⑥日本運動器学会 臨床研究セミナー2回目 2025.2.18 ⑦日本運動器学会 臨床研究セミナー3回目 2025.3.4 ⑧キネシオテーピング EDF&実践テープ 2025.3.9	
石原 靖之	①第15回福岡心臓リハビリテーション研究会 2024.5.31 WEB受講 ②ぐんま心肺運動負荷研究会セミナー 第1回CPX入門 in 熊本 2024.6.9 受講（熊本市パレヤホール） ③第18回宮崎心臓リハビリテーションセミナー 2024.6.17 WEB受講 ④NARD JAPAN認定 アロマアドバイザー養成講習会2024 受講（熊本市みゆきカレッジ） ⑤日本介護旅行サポーターズ協会認定 旅行介助士養成講座 受講（東京都むさし介護アカデミー池袋校）	
大塚開成	①発達障害Q&A（web開催）2024.7.11 ②作業療法士による読み書き支援（web開催）2024.8.22 ③第24回認知神経リハビリテーション学会学術集会（ハイブリッド開催）2024.11.30～12.1 ④第20回熊本作業療法学会 2024.1.26（済生会熊本病院）	
赤石めぐみ	①MTDLP推進協力校連絡会（Web） 2024.9.4 ②教員と実習指導者のためのMTDLP教育法①（重点課題研修）（Web） 2024.10.6 ③熊本県医療人育成総合会議 2024.11.4（熊本県医師会館） ④第58回日本作業療法学会 2024.7.9～10（札幌コンベンションセンター）	
本田直	九州作業療法学会2024 in 大分 2024.6.22～23（J:COMホルトホール大分） 臨床実習指導者講習会 2024.7.20～21（web） 熊本県医療人育成総合会議 2024.11.4（熊本県医師会館） 第20回熊本作業療法学会 2025.1.26（済生会熊本病院） 一般社団法人熊本県作業療法士会法人設立30周年 記念講演会 2025.2.8（熊本ホテルキャッスル）	
川窪昭子	介護福祉士養成施設協会主催 全国教員研修会 In 山形	
岸本稔	①2024九州理学療法士合同学会in熊本 2024.11.9-10 ②第26回熊本県理学療法士学会 2024.12.1 ③Redcordアドバンスコース（体幹・下肢） 2025.3.8-9	
野島謙一郎	海外ビジネス交流協会 2024.6.7 日本死の臨床研究会九州支部 2024年度第1回支部大会「施設でACPを考えよう」長崎大学医学部良順会館 2025.6.23 第1回災害対策検討委員会主催勉強会 2025.7.13 看護と介護の日本語教育研究会 第15回看護と介護の日本語教師研修 ハイブリッド 2024.8.24 第47回日本死の臨床研究会年次大会 2024.10.13 熊本県介護の日 2024.11.10	
福岡進	・第7回日本理学療法管理学会学術大会 2024.11.25～12.22 オンデマンド ・第26回熊本県理学療法士学会 2024.12.1 ・第28回宮城県理学療法学術大会 2025.2.2	
河口万紀子	精神科作業療法が参加する地域ケア会議(熊本県作業療法士県士会主催 Web開催) 2024.3.19 精神保健福祉研修会（市民会館シーアーズ夢ホール）2024. 8.9	R6思春期
柿下 耕一	D X で切り拓く企業の未来 第7回情報セキュリティ教育サミット 第371回RISTフォーラム～半導体産業とサイバーセキュリティ～ くまもとサイバーセキュリティシンポジウム2024 第373回RISTフォーラム～半導体産業とサイバーセキュリティ～	
三岳 柗智	第371回RISTフォーラム～半導体産業とサイバーセキュリティ～ 見える成果が安心を生む！効果的なセキュリティ教育の実践セミナー くまもとサイバーセキュリティシンポジウム2024 第372回RISTフォーラム～パワエレ×モビリティ×半導体×グリーンAIの最前線～ 第373回RISTフォーラム～半導体産業とサイバーセキュリティ～ Excel×AI パワーで熊本の明日を創る！DX入門セミナー 逆インターンシップ：「キャリアオーナーシップ時代の自己とチームの成長を促すためのリフレクション（内省）プログラム」 令和6年度 技術普及講習会（情報技術） 「（全3回）中小製造業における情報セキュリティの基本と対策」 （デジタル実装支援に係るデジタルものづくり中核人材育成事業） KUMAMOTO EXPO 2025（くまもと産業復興エキスポ）	
川崎 祐太	ChatGPT学習サポート くまもとサイバーセキュリティシンポジウム2024	
林田 拓哉	①全国リハビリテーション学校協会 第37回教育研究大会・教員研修会 2024.8.30～8.31 ②第12回日本筋骨格系徒手理学療法研究会学術大会 2024.11.23～24 ③第26回熊本県理学療法士学会 2024.12.1 ④令和6年度八代ブロック勉強会 2024.12.20 ⑤第4回理学療法士作業療法士専任教員養成講習会 2024.12.2～2025.2.19	

泉夏希	①脳科学入門研修会 2024.7/3、7/10（Web開催） ②臨床動作分析で必要な動作分析と治療 熊本ボバース勉強会 2024/9/15（対面） ③脳卒中者の歩行と装具のバイオメカニクス 2025/1/25（Web開催） ④i.solution研究会歩行コース（全6回：対面） 歩行第一回i.solution研究会 2024/6/2 ⑤歩行第二回i.solution研究会 2024/7/7 ⑥歩行第三回i.solution研究会 2024/8/4 ⑦歩行第四回i.solution研究会 2024/10/6 ⑧歩行第五回i.solution研究会 2024/11/3 ⑨歩行第六回i.solution研究会 2024/12/15 ⑩立ち上がりに必要な姿勢制御の評価と治療2025/12/20 熊本ボバース定期勉強会（対面） ⑪足部の評価と治療 2025/1/17 熊本ボバース定期勉強会（対面） ⑫脳生理学研修会 2025/1/26（対面） ⑬日本神経理学療法学会第7回SIGs参加フォーラム2025（Web：オンデマンド） ⑭安定した二足直立位 2025/2/21 熊本ボバース定期勉強会（対面） ⑮第4回理学療法士作業療法士専任教員養成講習会 2024.12.2～2025.2.19（Zoom開催）
V-7 社会活動実績	
田島 徹朗	公益社団法人 日本理学療法士協会 代議員 公益社団法人 熊本県理学療法士協会 監事 公益社団法人 熊本県理学療法士協会 臨床実習指導者養成講習会 委員会委員 熊本県理学療法ADVANCE 査読員 全国理学療法士連盟 代議員 熊本県理学療法士連盟 副会長 熊本市介護認定審査員 一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 評価員 熊本市住宅改造居宅介護支援員
飯星 雅朗	公益社団法人熊本県理学療法士協会 理事 公益社団法人熊本県理学療法士協会 地域局長 熊本市介護給付等の支給に関する審査会 委員 熊本市住宅改造居宅介護支援員 熊本市民健康フェスティバル 企画準備委員 熊本市保健医療専門団体連合会 監事
石原 靖之	公益社団法人熊本県理学療法士協会 学術局教育部臨床実習教育班 班員 日本ボバース研究会 九州ブロック 熊本県 世話人
瀧下 明日香	日本ボバース研究会 九州ブロック 南エリアマネージャー 公益社団法人熊本県理学療法士協会 専門領域部中枢班 班員 日本神経系理学療法学会の地方ブロック部員
福岡進	公益社団法人熊本県理学療法士協会 倫理委員会 委員長 2024.4～
井手 義智	公益社団法人熊本県理学療法士協会 専門領域部小児班 班員
河口万紀子	一般社団法人熊本県作業療法士会 財務部 部長 一般社団法人熊本県作業療法士会 学術支援アドバイザー 熊本市介護認定審査会委員 熊本職業能力開発促進センター講師 熊本市自立支援型ケアプラン作成に向けたリハ職派遣モデル事業協力員
山崎 孝文	一般社団法人日本作業療法士協会 代議員 一般社団法人 熊本県作業療法士会 監事 一般社団法人 日本作業療法士協会 福祉用具相談支援システム 相談担当アドバイザー 一般社団法人 熊本県作業療法士会 くまもとエキスパートOT
亀尾香珠代	一般社団法人熊本県作業療法士会 学術支援アドバイザー
本田 直	一般社団法人日本作業療法士協会 代議員 一般社団法人熊本県作業療法士会 専務理事（総務部担当理事兼務） 一般社団法人熊本県作業療法士会 事務局長 一般社団法人熊本県作業療法士会 学術支援アドバイザー 熊本リハビリテーション専門職三団体協議会 委員（事務局担当） 一般社団法人熊本県作業療法士会 くまもとエキスパートOT
赤石 めぐみ	一般社団法人熊本県作業療法士会 学術部員・学会企画運営委員会 一般社団法人熊本県作業療法士会 財務部部員 一般社団法人熊本県作業療法士会 事業部 刑務所支援チーム部員
大塚 開成	一般社団法人熊本県作業療法士会 総務部部长 一般社団法人熊本県作業療法士会 学術支援アドバイザー 一般社団法人熊本県作業療法士会 中長期計画策定チーム 熊本市自立支援型ケアプラン作成に向けたリハ職派遣モデル事業協力員 一般社団法人日本作業療法士協会 認定作業療法士 一般社団法人熊本県作業療法士会 くまもとエキスパートOT
福山 貴美子	熊本県看護教育機関協議会 教育委員
野島 謙一郎	一般社団法人熊本県介護福祉士会 副会長 一般社団法人熊本県介護福祉士会 研究委員長 熊本県福祉人材・研修センター運営委員会 委員 日本死の臨床研究会九州支部 支部役員及び啓発教育委員
	学校法人立志学園九州中央リハビリテーション学院理事
	国立病院機構熊本医療センター名誉院長 国立病院機構熊本医療センター看護師特定行為管理委員会 委員 国立病院機構熊本医療センター附属看護学校評価委員会 委員 国立病院機構熊本医療センターOB会 二の丸会 会長 熊本県内科医会副会長

河野文夫	日本臨床内科医会代議員
	熊本大学医学部第二内科OB会仁杏会理事
	日本血液学会功労会員
	日本造血細胞移植学会功労会員
	日本内科学会総合内科専門医
	日本血液学会専門医
	日本臨床内科医会認定医
	日本臨床内科医会専門医
	産業医
	熊本近代史研究会会員 会誌編集委員
	熊本観光文化検定1級
	熊本県護国神社崇敬会理事
	熊本県医療人育成会議委員会実行委員
	熊本県日中友好協会会員
	熊本県文化懇話会会員
	西部方面総監部後援会会員
	熊本県日韓親善協会会員
岩下 祥平	一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会 熊専各体育運営委員会 ソフトテニス競技委員長
	志学会（同窓会）副会長
川窪昭子	熊本市介護人材確保に関する会議 委員
	令和6年度 介護の日インくまもと 実行副委員長
	介護福祉士養成施設協会 熊本県代表校 運営委員
岸本 稔	公益社団法人 日本理学療法士協会 代議員
	公益社団法人 日本理学療法士協会 臨床実習指導者講習会質向上検討部会 委員
	公益社団法人 熊本県理学療法士協会 副会長
	公益社団法人 熊本県理学療法士協会 組織整備委員会 委員
	熊本県理学療法士連盟 事務局
	熊本県菊池広域連合 介護認定審査員
	社会福祉法人 友朋会 評議員
柿下 耕一	大分大学理工学部同窓会 熊本支部長
林田 拓哉	公益社団法人熊本県理学療法士協会 学術部学術研修班 副班長
芳野大介	令和6年度 介護の日作業部会

VI-2

高齢者の関連施設との交流について

作業療学科では、高齢者との関わりの機会として学院の関連施設であるグループホームと小規模多機能施設へ、学生派遣を行い 交流を行った。

交流会では、学生自身が考えた、「作業療法としての意味付けを考慮した作業活動」と「個別作業療法プログラム立案作成」を、利用者と職員への情報収集面談を通して立案する課題に取り組んだ。

この交流会は、臨床実習前の実践的トレーニングとして位置づけ、2,3年生を対象に以下の通り実施した。2年生は、認知症高齢者グループホーム潤で集団活動プログラムを、3年生は、小規模多機能施設かがやきで、集団活動プログラムと個別の作業療法プログラム立案を行った。主な実施内容は以下である。

1) グループホーム潤交流会

(対象学年) 2年生 28名

(目的)

- 1) 認知高齢者を理解し適切なコミュニケーションが取れる。
- 2) 認知症を対象にした集団活動の企画実施ができる。
- 3) 交流会実施時のリスク管理に配慮できる

(実施方法)

学習班5名企画運営を分担して行う。

(実施日) 実施時間：45分

10月11日 18日 25日

11月1日 15日 22日 計6回訪問

(内容) ①自己紹介、②RO法、③ラジオ体操
④脳トレーニング ④ボッチャを応用したゲーム
⑤クールダウン



《脳トレの様子》



《体操・ゲームの様子》



2) 小規模多機能型施設かがやき

(対象学年) 3年生 21名

(目的) 利用者との交流および対象者の作業療法プログラムを立案する。

(実施方法) 施設利用者と集団で体操や脳トレーニング、立位でのゲーム、創作活動などの作業活動を行う。また同意を得た対象者とスタッフに情報収集を行い、個別作業療法プログラムを立案する。

(内容) 体操・脳トレーニング、ペーパークラフトなどの創作活動やレクリエーション／同意を得た対象者との会話・スタッフへの情報収集

(実施時間と日) 時間：10時～11時

10月11日・18日・25日

11月1日・15日・22日 計6回

《かがやき交流会場面》



↑ゲームの様子

←創作活動

3) 報告会の実施

(実施日) 2025 月年 1月10日(金) 9時から12時

(会場) 講堂

(対象学生) 2～3年生

(内容) 5階講堂にて、2年生は活動報告、3年生はMTDLPを用いた作業療法プログラム立案報告を学習毎におこなった。

2年生報告 7分間報告 質疑応答2分

3年生報告 7分間報告 質疑応答7分



(まとめ)

高齢者施設へ訪問して対象者と直接交流することは、活動を実施する経験に加えて、声掛けの仕方、車椅子の移動介助、参加者の見守りなど、臨床実習前のトレーニングになっていた。

また、対象者との交流を通し 笑顔になり、意欲的に取り組みむなどの様子がみられたことは、学生自身の自信にがったように思われる。

加えて、2～3年生合同での報告会実施は、実習症例報告会の練習に機会になり、また、次年度のイメージができるなど、学年間の情報共有の機会になっていた。

広報活動

開催日	会場名	参加人数	テーマ	参加教員
2024 5月21日	国府高校 校内ガイダンス	13	進学ガイダンス	井手 柿下
6月6日	熊本市総合体育館 会場ガイダンス	25	進学ガイダンス	原田・浅尾・川崎
6月6日	熊本城ホール 会場ガイダンス	17	進学ガイダンス	山崎・亀尾・川窪→小川
6月12日	熊本中央高校	名簿取得不可	進学ガイダンス	赤石・芳野
6月19日	千原台高校	32	進学ガイダンス	福岡・泉
6月21日	九州学院高校	6	進学ガイダンス	渡久山・林田・古澤
6月25日	ルーテル学院	10	進学ガイダンス	本田
6月28日	慶誠高校	14	進学ガイダンス	平田・林田・小川
7月23日	マイナビガイダンス	65	進学ガイダンス	(午前) 川窪・赤石・川崎・岩下・林田
			進学ガイダンス	(午後) 小川・柿下・原田・泉・大塚・河口
9月18日	会場ガイダンス (総体)	25	進学ガイダンス	土井・林田
12月11日	会場ガイダンス (グランメッセ)	93	進学ガイダンス	赤石・山崎・本田
12月12日	会場ガイダンス (熊本城ホール)	36	進学ガイダンス	石原・亀尾・富永
2025 2月14日	天草拓心高校 (マリン校舎)	名簿取得不可	進学ガイダンス	大塚・芳野
2月21日	天草拓心高校 (本渡校舎)	名簿取得不可	進学ガイダンス	大塚
3月7日	熊本国府高校	4	進学ガイダンス	林田・島田
3月10日	鎮西高校	12	進学ガイダンス	原田
3月12日	千原台高校	15	進学ガイダンス	林田
3月14日	熊本商業高校	28	進学ガイダンス	原田
3月18日	開新高校	14	進学ガイダンス	泉

R6学生募集活動

①入学試験

	受験者	合格者		入学者
			内第2希望	
作業療法学科	25	25		25
理学療法学科	40	40		36
理学療法学科夜間部	8	8		7
看護学科	77	67		61
介護福祉学科	35	35	1	33
デジタルソリューション学科	16	16		15
計	201	191	1	177

入学試験出願者(学校別)

東海大学付属熊本星翔高等学校	10
八代清流高等学校	8
熊本工業高等学校	8
熊本国府高等学校	7
東稜高等学校	7
開新高等学校	7
鎮西高等学校	7
慶誠高等学校	6
熊本市立千原台高等学校	5
熊本西高等学校	5
尚綱高等学校	5
翔陽高等学校	5
熊本市立必由館高等学校	5
大津高等学校	5
八代白百合学園高等学校	4
球磨中央高等学校	4
玉名女子高等学校	4
熊本商業高等学校	3
秀岳館高等学校	3
天草拓心高等学校 本渡校舎	3
熊本中央高等学校	3
御船高等学校	3
鹿本高等学校	3
勇志国際高等学校	3
くまもと清陵高等学校	3
湧心館高等学校	2
菊池高等学校	2
南稜高等学校	2
水俣高等学校	2
文徳高等学校	2
熊本北高等学校	2
熊本農業高等学校	1
日本航空高等学校	1
八代東高等学校	1
矢部高等学校	1
岱志高等学校	1
九州学院高等学校	1
ルーテル学院高等学校	1
城北高等学校	1
熊本学園大学付属高等学校	1
鹿島朝日高等学校	1
クラーク記念国際高等学校	1
済々黌高等学校	1
鹿本農業高等学校	1
甲佐高等学校	1
専修大学熊本玉名高等学校	1

八代工業高等学校	1
ヒューマンキャンパス高等学校	1
【県外】	
福岡県立ありあけ新世高等学校	1
大牟田高等学校	1
誠修高等学校	1
精華女子高等学校	1
宮崎県立高千穂高等学校	2
宮崎県立延岡星雲高等学校	1
宮崎県立延岡青朋高等学校	1
延岡学園高等学校	1
長崎県立島原高等学校	2
新卒計	
	166

VI-5 オープンキャンパス

1.開催日時

- 第1回 5月18日(土)9:30 スタート
- 第2回 6月8日(土)9:30 スタート
- 第3回 7月13日(土)9:30 スタート
- 第4回 7月27日(土)9:30 スタート
- 第5回 8月3日(土)9:30 スタート
- 第6回 8月17日(土)9:30 スタート
- 第7回 10月30日(水)19:00 スタート→ナイトオープンキャンパス
- 第8回 11月2日(土)9:30 スタート
- 第9回 11月19日(火)19:00 スタート→ナイトオープンキャンパス
- 第10回 12月18日(水)19:00 スタート→ナイトオープンキャンパス
- 第11回 1月7日(火)19:00 スタート→ナイトオープンキャンパス
- 第12回 3月22日(土)9:30 スタート

2.告知

- ①学院パンフレット、告知ポスターを県内及び県外の高校(県境近郊)に配布
- ②進路ガイダンス等での呼びかけとポスター告知
- ③学院ホームページ、SNS、進学専門誌に掲載

3.参加状況

オープンキャンパスは12回開催し参加者数名(485名)前年比88%だった。(昨年548名)

2024	OT	PT	PTN	Ns	CW	DS	IC	合計
	参加	参加	参加	参加	参加	参加	参加	参加
第1回 5/18(土)	7	1	0	12	6	3	2	31
第2回 6/8(土)	9	15	2	23	4	3	8	64
第3回 7/13(土)	17	27	1	29	1	7	7	89
第4回 7/27(土)	9	37	0	34	2	4	3	89
第5回 8/3(土)	16	28	0	17	4	4	1	70
第6回 8/17(土)	12	25	1	37	2	5	2	84
第7回 10/30(水)	0	0	0	0	0	0	0	0
第8回 11/2(土)	2	7	0	2	3	1	0	15
第9回 11/19(火)	0	0	0	0	0	0	0	0
第10回 12/18(水)	0	0	0	0	0	0	0	0
第11回 1/7(火)	0	0	0	0	0	0	0	0
第12回 3/22(土)	4	16	2	14	3	1	3	43
合計	76	156	6	168	25	28	26	485

4.内容

通常開催(来校型)8、ナイトオープンキャンパス4実施した。



VI 社会活動・地域活動

VI-8 入学前教育プログラムについて

入学後の学習や学生生活が円滑なスタートになるように、3回のセミナーと、テキストでの自宅学習を実施した。

令和7年度入学の理学療法学科(昼間部、夜間部)作業療法学科の新入学生を対象に以下の目的及び内容で開催した。

1) 目的

学習習慣の定着、入学後の学習イメージを持つ学生間と教職員との交流を深める 入学前のオリエンテーションの4つを目的とした。

2) 内容

①自宅でのテキスト学習

新入学生全員に「プレリハ」テキストを購入して頂き自宅学習を勧めた。テキストは、達成度確認の為、入学後に提出することとした。

②入学前セミナーの開催 (3回)

第1回 12月21日(土曜日)

第2回 3月4日(火曜日)

第3回 3月25日(火曜日)

◆ 第1回セミナー

(日時)12月21日(土曜日) 9時～11時

(場所)OT学科 1番教室 PT学科 2.3番教室

(内容)プレリハ確認テスト① 実施と採点、

事務連絡

学科別の交流会

セミナーアンケート

《作業療法学科の交流会》

1) 傾聴スキルを用いた自己紹介

導入時のアイスブレイキングとして、以下の手法で自己紹介を行った。

①サイコロの目に応じたお題があり出た目のお題を班員に一人ずつ話をする。

②その際に「うなずき・相槌・繰り返し」の傾聴スキルを用いて班員は傾聴を行う。

③傾聴してもらうことで安心感を体験する。

2) 作業療法に関する三択クイズ大会

教員から作業療法に関する問題を三択形式で出題班で協力してスマホ検索で解答を探し解答を選択させた。最も成績の良い優勝班には表彰と景品が授与された。皆で協力して答えを探す作業は、連帯感を感じて大いに盛り上がった。

優勝した班員は、思いがけないプレゼントに大変嬉しそうな表情で喜んでた。



作業療法学科 第1回セミナーの様子 r
(参加人数) 15名

《理学療法学科(昼・夜間)の交流会》

1) 自己紹介

班毎に自己紹介シートを用いた自己紹介をおこなった。各自緊張しており、入学後のクラスメイトとして交流を図る。(4～6名を1班とする)

2) 人体に関する骨模型の組み立て

1) 後に、プレリハの確認テストに準じた、骨模型の組み立てを実施した。組み立て作業の導入として、「模型」と「晒骨(人骨)」の違いを目視にて確認し、色や形などを見てもらう。導入後は、頭部～上肢(頭部、脊柱、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手部)、下肢(寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨、足部)の順に机上で組み立てを行った。各班員が協力し、同一課題に取り組むことで、事前学習の理解に加え、各生徒間の交流、課題に対して主体的に取り組むことが出来た。セミナー後のアンケート結果より、参加者同士の交流を希望する学生も多く、新年度からの交友関係構築に不安を感じているようであった。



理学療法学科 第1回セミナーの様子
(参加人数) PT26名 PTN3名 OT13名 総数 42名



◆第2回セミナー

(日時) 3月4日(火曜日) 13時～15時45分

(場所) 講堂

(内容) 事務連絡 (事務: 古市)

学院長ご挨拶 (河野学院長)

講義①運動機能学について

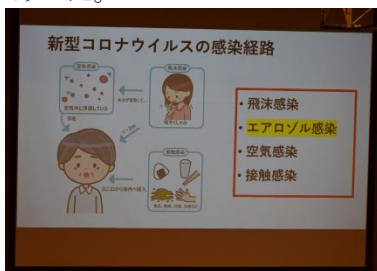
(講師: 理学療法学科教員 岩下 祥平)

講義②生理学・脳機能について

(講師: 理学療法学科教員 石原 靖之)

《学院長ご挨拶》

入学に先立ち、医療従事者としての感染対策の意識づけの重要性と入学後の学習に対しての心構えを交え学院長から挨拶があった。



《河野学院長ご挨拶》

《講義①運動機能学について》

講師: 理学療法学科教員 岩下 祥平

プレリハテキスト解説講義を行った。範囲として、第1章・第2章の一部についてスライドと実技を交えて実施した。目的として、医学用語について触れること、理学療法士・作業療法士に必要な「面や軸」について知ることに加え、今回学習した内容と今後の授業を想定した導入編として行った。参加者の理解することの難しさを感じつつ、入学後のイメージを持ってもらう。関節の運動方向や実際のストレッチについては、担当教員の体を用いて多方向からのイメージ構築を図った。



《講義①の様子》

《講義②について》

講師: 理学療法学科教員 石原 靖之

講義②について

今年度から、解剖生理学の講義も加え実施した。脳の解剖学的構造・脳神経の暗記の仕方、生理学的な内臓の位置関係の確認・腸の機能と役割など、基本的な内容の講義が行われた。



《講義②の様子》

◆第3回セミナー

(日時) 3月25日(火曜日) 13時～15時30分

(場所) OT 学科 1 番教室 PT 学科 3.4 番教室

(内容) プレリハ確認テスト②、事務連絡
学科別の交流会

《作業療法学科の交流会》

まずは、交流をより深めてもらう目的で、「非現実的自己紹介」というテーマで、会話を行わず身振りや手振りで、誕生日の早い順番に並ぶというゲームを行った。クラスメイトに一所懸命自分の誕生日を伝える為、自然と身振りや手振りが大きくなり、笑顔での交流がみられた。

確認テスト②を受験後、5人の班になり、骨格標本を並べる学習会を行った。どこの骨であるかの位置の確認や、骨の左右の確認などを、教員の指導を受けながら、スタンド式の骨標本を観察して、班員で協力しながら熱心に取り組む姿勢が伺えた。



《作業療法学科 第3回セミナーの様子》

《理学療法学科の交流会》

1) 自己紹介

初回参加者が複数名含まれるため、4～6名1班を7班編成し、各班内で自己紹介を行った。

2) 骨模型と筋の走行についての学習

第1回、第2回セミナーで行った学習内容をもとに、模擬授業形式の交流会を実施した。吊るしの骨模型とガムテープを用い、筋を3次的にとらえ、運動イメージや筋の走行をイメージする課題を行った。更に、骨のイメージを持ってもらう目的として、個別の骨模型も用いて行った。対象筋として、上肢筋（三角筋、上腕二頭筋）、下肢筋（腸腰筋、大腿四頭筋、前脛骨筋、下腿三頭筋）に絞り、教員のデモンストレーション後に各班で協力してガムテープを貼付した。交流会中はほとんどの参加者が立って作業を行い、主体的に取り組んでいた。

3) 担任紹介

交流会の対応教員として動員し、入学前から担任と関わる機会を設ける。また、交流会後に昼間部担任の渡久山先生、泉先生、夜間部担任の原田先生より挨拶を行う。



《理学療法学科 第3回セミナーの様子》

(まとめ)

入学前プログラムは、入学決定後から入学までの自宅でのテキスト学習に加え、対面でのセミナーを3回開催することができた。

また、テキスト内容を基本とした確認テストを2回実施することで、本プログラムの目的である、学習習慣の定着と入学後の学習イメージを持つことに良い効果があったと思われる。実際、確認テストについての成績は全学科良好であった。

学科別での交流会の時間を多めに設定したが、クラスメイト、教員との良い交流ができていた。

更に、今年度は、第2回セミナーでの講義で、運動学講義に加え、生理学講義も行い入学前の基礎教科の学習するイメージになったと思われる。

看護学科 入学前セミナー

1. 日 時 : 令和7年3月6日(木) 9:10~12:10
2. 場 所 : 2号館、4階、教室5・6
3. 当日スケジュール

時間	全体
8:30	受付
9:15	オリエンテーション 開会
9:30	セミナー 学んでみよう！生命を維持する働き
10:15	休憩
10:25	交流会
10:50	休憩
11:00	学校生活について アンケート
11:30	学科長挨拶
11:45	事務連絡 閉会

*入学を控えた61名の学生達が、在校生18名が迎える中、多分最後になるであろう、高校の制服に身を包み、集合時刻前に全員集合した。入学試験時の緊張した面持ちも幾分和らいではいるが、チームの中で着席している様子にやはり緊張の色は隠せないようだ。

いよいよ、ワールドカフェで自己紹介よりスタート。さすがに在校生が、先輩らしいおもてなしで、セミナーの進行にそって、上手くアシストしていく。バイタルサインの測定では、お手本を示し、優しく説明している様子に学校生活で身に付けた関わりが温かく伝わってくる。

最高に盛り上がっていたのは、なんと言っても「交流会」であった。真面目な話から失敗談、勉強の仕方や、実習についてなど。「看護を学ぶ」「看護師を目指す」という共通の目的がお互いをより身近な存在に感じさせていくのだろう。セミナー終了時には、参加学生達の表情も良く、心なしか引き締まり構えはできたようだ。

VII 奨学金・特待制度・減免制度

1	日本学生支援機構	令和6年度 奨学金等交付総額	
2	県市町村/団体		
3	熊本県母子家庭高等職業訓練促進給付金事業	¥433, 496, 200	
4	生命保険協会 介護福祉士養成奨学金		
5	熊本県介護福祉士等修学支援資金		
6	成績優秀者特待制度		
7	後援会奨学制度		
1	日本学生支援機構	全体	
	令和6年度交付対象件数	619件	給付額（前期） ¥29, 207, 400
	第1種奨学金(利子無)	212件	貸与額（前期） ¥158, 378, 600
	第2種奨学金(利子付)	259件	
	給付奨学金	148件	給付額（後期） ¥26, 754, 000
			貸与額（後期） ¥148, 242, 000
	入学時特別増額貸与奨学金		
	交付対象者	11件	給付額（通年） ¥55, 961, 400
	特別増額貸与総額	¥3, 800, 000	貸与額（通年） ¥306, 620, 600
	＜前期＞	＜後期＞	
	給付第Ⅰ区分 60名	給付第Ⅰ区分 38名	入学金減免額 ¥6, 335, 600
	給付第Ⅱ区分 40名	給付第Ⅱ区分 32名	前期授業料減免 ¥26, 891, 550
	給付第Ⅲ区分 25名	給付第Ⅲ区分 11名	後期授業料減免 ¥18, 229, 050
	給付第Ⅳ区分 9名	給付第Ⅳ区分 10名	減免総額 ¥51, 456, 200
	(うち多子世帯8名)	(うち多子世帯9名)	
	日本学生支援機構/文科省学習奨励費		
	※2024年度は採用枠なし		
	令和6年度新規採用者		
	新入生	給付 53件	貸与 126件
	在校生	給付 3件	貸与 14件
	令和6年度新入学生数に対する交付率	51. 95%	
	全学生数に対する交付率	57. 51%	
	日本学生支援機構奨学金 貸与/給付総額 ¥414, 038, 200		
2	県市町村及び団体	月額	年額(人数合計)
	長崎県育英会	1名 一括貸与	¥700, 000
	熊本県看護師等修学支援資金	3名 ¥36, 000	¥1, 296, 000
	あしなが育英会（該当なし）	0名 ¥70, 000	¥0
	交通遺児育英会（該当なし）	0名 ¥30, 000	¥0
	国際ソロプチミスト財団	1名 一括支給	¥300, 000
	ほしのわ財団	1名 一括支給	¥230, 000
		総額	¥2, 526, 000
3	熊本県母子家庭等高等職業訓練促進給付金等事業	月額	
	交付月額(給付)	4名 ¥100, 000	総額 ¥4, 800, 000
4	生命保険協会 介護福祉士養成奨学生	月額	
	交付月額(給付)	1名 ¥20, 000	総額 ¥240, 000
5	熊本県 介護福祉士等修学支援資金	年額	
	交付月額（貸与）	7名 ¥820, 000	総額 ¥5, 740, 000
6	令和6年度 成績優秀者 特待制度	新入生	在校生
	作業療法学科	0名	5名
	理学療法学科昼間部	3名	12名
	理学療法学科夜間部	0名	2名
	看護学科	2名	8名
	介護福祉学科	1名	1名
		免除額合計	
		特待生総数 34名	
		免除総額 ¥5, 388, 000	
7	令和6年度 後援会奨学制度	対象者数	免除額合計
	作業療法学科	1名 ¥120, 000	免除対象 7名
	理学療法学科昼間部	2名 ¥240, 000	免除総額 ¥764, 000
	理学療法学科夜間部	1名 ¥100, 000	
	看護学科	2名 ¥208, 000	
	介護福祉学科	1名 ¥96, 000	

【編集後記】

令和 6 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もほとんどなくなり、本来の学院生活が過ごせるようになってきました。その中で、学院行事や部活動も幅広く活動が出来るようになった年に成りました。その為、学生間のみならず教職員とも交流が深まり充実した学生生活が築けた内容が年報にも反映されていると思います。また、今年度から、デジタルソリューション学科を迎えて 5 学科での年報作成となりました。

当学院も、開院 20 周年を迎え、多くの卒業生を社会へ送りだして参りましたが、その歴史と共に更に発展していけるよう、また学生が貴重な日々を楽しく過ごせるよう、教職員も楽しみながら有意義に役割を果たしていくことが大切だと考えます。このことが来年度に繋がっていくと思います。

年報制作にあたり教職員の皆様のご協力ありがとうございました。

河口 万紀子

<令和 6 年度 年報編集委員>

井出 義智 (理学療法学科)
河口 万紀子 (作業療法学科)
福山 貴美子 (看護学科)
野島 謙一郎
(介護福祉学科・国際介護学科)
柿下 耕一
(デジタルソリューション学科)
島田 一誠 (事務部)
志垣 伸太郎 (法人部)